

令和 2 (2020) 年度

市立函館博物館 研究紀要

第 3 1 号

大矢 京右	児玉コレクションのトンコリ	－ 1 －
山口 精次	加藤文五郎の生涯と事績	－ 6 －
保科 智治	〈資料紹介〉館蔵「笹野家関係文書」の紹介	－ 17 －

児玉コレクションのトンコリ

大矢 京右

はじめに

市立函館博物館は、北海道大学名誉教授
児玉作左衛門こだまさくざえもん（1895-1970）が収集した資料群、通称「児玉コレクション」を所蔵しており、その質・量は国内でも稀有な存在である。様々な縁があつて同館に寄託・寄贈されるに至った同コレクションであるが、来歴が確かではない資料が多く含まれていることなどから、資料そのものはもとよりコレクションの評価にまで至っていないのが現状である⁽¹⁾。

本稿では児玉家旧蔵資料⁽²⁾からその来歴等が判明した、児玉コレクションのアイヌの五弦琴「トンコリ」（資料番号H10-51-5-52）について紹介するものである。

1. 資料の形態

本資料は全長108.8cm、共鳴胴の最大幅9.7cm、同最大厚4.2cmであり、三味線用とみられる同じ太さの5本の弦が長さ12.5～12.7cm、直径1.2～1.4cmの糸巻と根緒に結束されている。根緒は、材質の異なる2種の皮革を、植物由来と思しき繊維で縫い合わせたものである。上部の先端（トンコリサバ）中央には貫通孔が穿たれ、共鳴胴に木釘で固定された共鳴板には響孔はなく、トンコリによくみられる共鳴胴内部にガラス玉等が入れているような音はしない。

筆者が2011年（平成23）に試みたアイヌの弦鳴楽器の型式分類（大矢 2011）では「チター系タイプ1」に分類され、「北海道アイヌ様式」となる。

2. 資料の来歴

現在確認される本資料に関する記述として最も古いものは、『稚内市史』であろう。そこには「エシンレーキ⁽³⁾所有の（中略）トンコリ（竪琴）は児玉作左衛門が所蔵されている。」「エシンレーキアイヌ使用のトンコリ（北大名誉教授児玉作左衛門氏所蔵）」（稚内市 1968:76）という微妙に表現の異なる短い紹介文とともに、写真図版が掲載されている。その後本資料について具体的に言及されたものは絶えて無かったが、このほど児玉家旧蔵資料の中に確認された「1959年（昭和34）7月5日付松川五郎発大場利夫・児玉作左衛門宛私信」（以下「松川私信」）から、本資料の来歴についてうかがい知ることができたため、その内容について以下に紹介する。

なお松川私信は、「豊富集団開拓部落の農業指導者」（大場 1976:27）であった松川五郎⁽⁴⁾が、豊富町の瀬賀福松という人物（以下「旧蔵者」）⁽⁵⁾が所有していた本資料について、大場利夫と児玉に対して入手を仲介⁽⁶⁾するためのものであり、便せん4枚に松川の近況とともに本資料の来歴⁽⁷⁾などがしたためられている。本資料に関連する記述を以下に抜粋するが、原文になかった句読点は筆者が付し、それ以外の表現についてはすべて原文のままである。

（前略）トンコリの事を尋ねましたところ、御話しました。

長さ三尺五寸五分、巾さ最大三寸三分余



トンコリ (H10-51-5-52) 表面



トンコリ (H10-51-5-52) 裏面

り。クリヌイタ胴の部分のふたがうちつけてありました。すすけて黒光りしてました。楽器名称は知りませんでした。アイヌのシャミセンと云っていたそうです。

とてもよくなるとので、よい音色だったと申します。御存知の通りまあ一種のギタのようなものですね。

(中略)

借りられるか譲られるかきいて見ましたら、お借しするのはよいし、御話の次第では私蔵してをいても役にもたたぬものと思ふから、御譲りしてもよいと云ってくれました。

それで一存でしたが、いづれ大学からどなたか責任者がお見えになるだろうから、御話しをきいてくださるか云ったところ、よろこんで御目にかかるとの事でしたから、どうかその御ふくみでお出かけ頼ます。瀬賀の福松一家は、稚内のコイトイのアイヌ部落にいたのだそうです。アイヌの世話をよくしたのだそうです。そんな事でアイヌの飯田幸作(アイヌ名前イシンリキ)から色んなものをもらったなかに、トンコリもはいていた由。くりと云ふ老人⁽⁸⁾は、その頃の事を盛んに話してくれました。おかげで面白くきいてきました。

このトンコリをかなでて歌を歌った人は、イシンリキの親類のラベンと云バッコ⁽⁹⁾ だたそうです。サビタの皮をよってつくった五本の糸、太いのからだんだん細い五段の糸だったそうですね。(後略)

本資料の来歴について、松川私信の内容からは、以下のように要点をまとめることができる。

・もともと稚内声問のアイヌ、エシンレーキが所有しており、その親類であるラベン

が演奏に用いていた。

・エシンレーキが縁のあった旧蔵者に贈り、後に(1959年以降)松川の仲介により児玉の所蔵するところとなった。

そして1970年(昭和45)の児玉の死後、本資料は1993年(平成5)に児玉の遺族から市立函館博物館に寄託され、1998年(平成10)には寄贈となり、現在に至っている。

おわりに

本稿では児玉コレクションのトンコリについて、児玉家旧蔵資料から得られた情報を基にその来歴を紹介した。前述のとおり児玉コレクションは来歴が明らかな資料が多くはないが、関連資料を精査することで、今後さらに来歴を確かめられる資料が増える可能性がある。

また、近世の文献資料等から、トンコリが樺太および北海道北部で用いられていた楽器であることは分かっていたが、現在博物館などに残されている伝世資料は、そのほとんどが樺太で収集されたものや樺太アイヌの技法で制作されたものである。そういう意味では北海道北部に由来を持つことが確かめられた本資料は、今後のアイヌ文化研究や文化伝承において重要な役割を果たすものとする。

謝辞

本稿作成において、以下の方々からひとかたならぬご協力を頂いた。よって、ここに記して謝意を表します。(敬称略・五十音順)

大坂拓(北海道博物館学芸員)

奥野進(市立函館博物館学芸員)

児玉健(児玉作左衛門遺族)

齋藤穰一(稚内市教育委員会学芸員)

西谷榮治(元利尻町立博物館学芸員)

(元市立函館博物館学芸員)



貫通孔が穿たれた上部先端と糸巻



糸倉と共鳴胴の境（裏面）



根緒と駒

（参考文献）

- 大坂拓 2020「再発見 音吉さんのイナウ」『森のちやれんがニュース』21:p. 2, 北海道博物館
- 大場利夫 1976「サロベツ遺跡」『北海道自然保護協会会報』15:pp. 26-29, 北海道自然保護協会
- 大矢京右 2011「アイヌの弦鳴楽器」『市立函館博物館研究紀要』21:pp. 1-18, 市立函館博物館
- 大矢京右 2017「児玉コレクションの収集経過とその周辺」『市立函館博物館研究紀要』27:pp. 1-40, 市立函館博物館
- 小野米一・奥田統己 1999『北海道のことば』, 北海道新聞社
- 金谷栄二郎・宇田川洋 1986『樺太アイヌのトンコリ』, 常呂町郷土研究同好会
- 北原次郎太 2003「トンコリの戦後史ー1945年～1977年を中心に」『千葉大学社会文化科学研究』6:pp. 67-94, 千葉大学社会文化文化科学研究科
- 北原次郎太 2003「トンコリの戦後史2ー1977年～1998年までー」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』7:pp. 9-18, 千葉大学ユーラシア言語文化論講座
- 財団法人アイヌ民族博物館編 2006『トンコリを中心とした西平ウメの伝承及びトンコリの総合的研究報告書』, 財団法人アイヌ民族博物館
- 西谷栄治 1991「関正資料目録 その1」『利尻町立博物館年報』10:pp. 65-72, 利尻町立博物館
- 藤沢隆史・高島孝宗・斉藤譲一・山谷文人・松田宏介・乾茂年 2017「関正フィールドノート（1）」『利尻研究』36:pp. 73-82, 利尻町立博物館
- 北大山岳館運営委員会編 2012『ヘルヴェチアヒュッテ八十五周年ー建設した人々の記録ー』, 北大山岳館運営委員会
- 稚内市史編纂室編 1968『稚内市史』, 稚内市

- (1) コレクションの形成や資料受入の経緯等については大矢 2017を参照。
- (2) 2003年（平成15）に旧児玉邸から函館市北方民族資料館に持ち込まれていたもの。
（大矢 2017:20）
- (3) 1899年（明治32）5月に調査のため北海道を訪れた大野延太郎の報告に、宗谷郡声間村（現在の稚内市声間）に妻のエニシコラマチと居住していたことが記述されている。（大野 1899:67）
「エシンレーキ」をはじめ、「エシンレキ」、「イシンリキ」など様々な表記が見られるが、本稿では引用文を除いて「エシンレーキ」で統一する。
- (4) 松川五郎（1897-1977）は東京生まれ、1925年（大正14）北海道帝国大学農学部卒業後、宮城県加美農蚕学校教員、同県南郷村国民学校校長を経て満州移住協会参事。戦後は天北庄内開拓農協参事としてサロベツ原野開拓を指導。（北大山岳館運営委員会編 2012）1955年（昭和30）に、北海道大学の大場に対し、開発によって破壊が危惧される豊富遺跡の調査を要望している。（大場 1976:27）
- (5) 稚内市を拠点に宗谷地方の考古学調査と資料収集を行っていた関正（1912-1987）は、1931年（昭和6）12月に「豊富瀬賀老」のもとで土器などとともに「三味線」を披見し、そのフィールドノートに「三味線は丸太を半分にして中をくり抜き上に枝をはったものであった。糸巻きは実に粗末であったが現在のものと変わっていない。」（藤沢他 2017:79）と記述している。ここでいう「三味線」と、後述する松川私信の「アイヌのシャミセン」、ひいては本資料は同一のものである可能性が高い。
- (6) 松川私信は同年6月26日付「お手紙」に対する返信であり、大場もしくは児玉から「お手紙」で仲介を頼まれていたとみられる。
- (7) 松川私信によると旧蔵者は1955年頃に死去しており、来歴等はその夫人からの聞き取り内容である。
- (8) 旧蔵者夫人。
- (9) 老婆の意。（小野・奥田 1999:142）

加藤文五郎の生涯と事績

山口 精次

はじめに

平成18年、「加藤家資料」34件49点が市立函館博物館に寄贈された。資料の大半は明治後半から大正期に作成されたものである。主な内容は、松前の砂金鉱山、七重の農場、芦別の炭山に関することである。(15頁資料リスト参照)

加藤家は、マルク加藤商店として当初は弁天町で営業していた。その後末広町93・94番地（現末広町18番）で和洋小間物、洋物類、雑貨類の卸小売業を営んでいた。

本稿では、当該資料中に頻出する加藤商店店主加藤文五郎の事績などについて紹介するものである。

加藤文五郎の出自と来函後の状況

加藤文五郎は、嘉永5（1852）年8月9日陸奥国江刺郡片岡村（現岩手県奥州市岩谷堂）に遠藤剛助の二男として生まれ⁽¹⁾。岩谷堂は江戸期片岡村の中心地で良質な米の産地。北上川船運、気仙・東山方面の陸路を押さえる交通の要衝で宿場町をなし、江刺郡統治の中心地で江刺代官所があった。江刺郡は明治維新まで仙台藩領。盛岡藩との藩境地帯にあり、防備のため片岡村岩谷堂要害を中核として、人首村、上口内村の各要害に重臣を配し藩境防衛体制を固めていた。要害は城に準ずる城館のある要地のことで、江刺郡に24カ所あった⁽²⁾。要害の周囲には陪臣の家敷、寺屋敷、町屋敷などから構成される小城下町が形成されていた。

遠藤剛助は仙台藩の藩士として、藩境警備のため岩谷堂に配置されていた。『仙台

府諸士藩籍』に「御足輕御小人組御免並之者出入司支配 知行貳貫八百拾四文 外貳貫文永御貸上 遠藤郷助」とある⁽³⁾。名前の一字は違うが、読み方は同じなので加藤文五郎の父親と思われる⁽⁴⁾。

函館に来る以前の状況

加藤文五郎は幼時武術を学んだ。しかし武士になるのを嫌い商界に入った。独立を考え家は兄が継いだ。仙台大町の小間物商奈良屋藤七店へ奉公し、3年間商事見習をした。期間は、文久2（1862）年から元治元（1864）年頃で、11歳前後だった。奈良屋藤七は京都生まれだが幼少時から仙台の支店に勤めた。藤七は、「城下火災ある毎に各戸を賑救」し、俠商と言われた⁽⁵⁾。安政4年（1857）苗字御免で上松東七と名乗った⁽⁶⁾。加藤文五郎が後に貧困者を救助し、金品を与える精神はここで培われたようだ。

加藤文五郎は慶応3（1867）年頃に二本松に移り、明治元（1868）年には福島に移った。のち片岡村に帰り兄出陣の留守宅を一年間守った。兄が無事帰宅し、仙台藩が朝敵として処罰されると南部方面へ行商に出た。

加藤文五郎は南部で、北海道が将来有望な地であることを聞き、明治2（1869）年9月涼風丸で単身函館へ渡った。箱館戦争が終わった4か月後だった。最初西浜町板垣商店に入るが、すぐ主家を出て小樽方面を行商した。奮励すること3年、小樽で同業者の先輩加藤熊吉と遇った。加藤熊吉は天保3（1832）年10月2日三河国額田郡岡

崎町（現愛知県岡崎市）で、加藤仁兵衛の長男として生まれた⁽⁷⁾。明治元（1868）年箱館山ノ上町（現弥生町）に小店舗を開き、行商数名を督励して商業を営んでいた。文五郎と取引をすることがあり、人柄を見込み嗣子に懇望した。加藤文五郎は明治5（1872）年加藤熊吉養女コマと結婚した⁽⁸⁾。コマは、安政6（1859）年3月1日北海道松前郡福山馬形上町（現松前町字豊岡）に森文蔵の四女として生まれた。

明治12（1879）年12月6日堀江町（現末広町）からの出火で山ノ上町の家宅を類焼した。翌明治13（1880）年に借家し、弁天町21番地（現弁天町16番）に店を開業した⁽⁹⁾。明治16（1883）年諸物価の下落に遭い商店の維持ができず、商品一切を他に売却し、その資本で他の安価な商品を仕入れ廉価に販売し、危機を乗り越える。

明治17（1884）年12月19日には鍛冶町45番地（現弥生町20番）の本家加藤熊吉方から、弁天町51番地（現弁天町14番）へ分家した。明治23（1890）年3月28日に分家を廃し、本家へ復籍し、同年3月31日に加藤家を相続した⁽¹⁰⁾。

養父加藤熊吉は明治23（1890）年9月20日に死去した⁽¹¹⁾。養父が死去した2年後の明治25（1892）年に末広町93・94番地に商店を新築、一層営業を拡張し、遂に函館における小間物卸問屋の本店となった。商店は現在の電車通りに面した西洋造りの立派な店だった。

函館における活動について

加藤文五郎商店の商売の実態は資料がなく、よく分からない。ここからは同業者、商工業界、市政における活動と社会福祉、慈善事業での活動を辿ってみる。

・函館和洋小間物商組合

明治13（1880）年に加藤熊吉と新田完一らは初めて同業者組合を組織した⁽¹²⁾。当時

組合員は50名程だった。加藤熊吉は明治元（1868）年山ノ上町に小店舗を開いた。販売品目は和洋小間物、洋物類、雑貨類であった。後に加藤商店は日高・胆振・釧路・千島・樺太方面に数名の店員を派遣し、販路拡張を図った。新田完一は明治7（1874）年末広町26番地に新田完一商店を創業。卸部の販売品は和洋小間物、婦人小間物類一式。小売部は各洋物、袋物・婦人物一切、その他美術品・貴金属類など広く需要に応じ、北海道全域や本州に販路を有した。組合は、明治26（1893）年5月26日に北海道庁の設立許可を受け、函館和洋小間物商組合となった。組合員数は76名で、加藤文五郎は正取締（組長）となった。当時函館の和洋小間物商は55店あり、西洋小間物商は7店だった。事務所は大正12（1923）年11月まで末広町にあり、以後地蔵町31番地に移転した。このことから、加藤文五郎の組長は大正12年までだったことが分かる。以後十全堂商店が引き継いだ。

・函館商工組合と函館商工組合連合会

明治18（1885）年1月函館県は旧来の悪い習慣を改め、商業の面目を一新するため商業組合例則を定め、各組合を編成させた⁽¹³⁾。函館商工組合は創立時組合総数65、組合員約5,200人。函館商工組合は明治44（1911）年3月20日区内商工業組合代表を商業会議所に集め、区内の商工業組合連合会を組織する件を満場一致で可決し、商工組合連合会が創立した⁽¹⁴⁾。目的は雇人の奨励だった。第一回使用人選奨式は大正元（1912）年9月28日函館区公会堂で行われ、雇人200余名の顕彰を行った⁽¹⁵⁾。第二回は、大正10（1921）年10月3日で323名を表彰している。加藤文五郎は明治44（1911）年3月20日の集会に和洋小間物商組合代表として出席した。

・函館商工会と函館商業会議所

明治22（1889）年5月6日に北海道庁長

官から設立認可を得た函館商工会は平田兵五郎（文右衛門）、小川幸兵衛、林宇三郎らが首唱して、地域の各商業組合、諸会社、銀行、商工業者に諮って作った自主的組織である⁽¹⁶⁾。主な事業は、北海道庁長官からの諮問に対する答申・調査、商工業界の建議、各商業組合の事務を監督、商工業上の利害を討究し、商取引上の悪弊を改めることだった。会頭は杉浦嘉七で、加藤文五郎は明治22（1889）年から明治29（1896）年3月まで会員だった。この函館商工会が発展的に解消し、後の函館商業会議所となる。明治28（1895）年6月に、区内の実業家が設立について打ち合わせを行い、9月17日に北海道最初の商業会議所が創立された。翌明治29（1896）年1月に選挙が行なわれ、初代会頭に平出喜三郎が選出された。函館商工会は明治28（1895）年11月に総会を招集し、解散した。明治22年5月以来の歴史に幕を閉じ、財産は函館商業会議所へ引きつがれた。加藤文五郎は函館商業会議所設立発起人25名の一人だった。加藤は明治34（1901）年12月から大正3（1914）年9月までの間〔明治39（1906）年10月から明治41（1908）年9月までを除く〕会議所の議員を務めた。函館商業会議所は、昭和3（1928）年1月に商工会議所法に基づき、函館商工会議所と改称した。

・ 函館区会議員

明治32（1899）年10月1日、北海道区町村制が実施され、函館、札幌、小樽に区制がひかれた。函館は自治制の区となり助役、収入役を設け区会議員定数は30名とした⁽¹⁷⁾。加藤文五郎は明治32（1899）年11月12日の選挙で当選し、明治35（1902）年11月11日迄その職にあった。

・ 函館慈恵院

明治33（1900）年2月に仲山與七が設立を唱え、上田大法、寺井四郎兵衛が協力し、寄るべなき老幼病者を救助するため、函館

慈恵院創設を計画した。5月に創立総会を開き、寺井四郎兵衛が寄付した東川町274番地（現千歳町22番）に函館慈恵院院舎（205坪）を建設し、11月に開院式を行った⁽¹⁸⁾。

明治34（1901）年2月社団法人組織とし、函館の有力者が入社し、基本財産を各氏が出資した。加藤文五郎は「一金 五百円」を出資した。11月27日に設立が認可され、12月15日に臨時総会を開き、理事及び監事の選挙を執行した。理事長には寺井四郎兵衛が選出され、加藤文五郎は明治34（1901）年12月15日から明治36（1903）年3月24日まで監事を務め、明治36（1903）年3月25日から大正12（1923）年までは理事を務めた。

昭和21（1946）年8月28日、北海道長官から函館慈恵院定款改定が認可され「社団法人函館慈恵院」を「社団法人函館厚生院」と改称し、10月9日には定款改定に伴い「社団法人函館厚生院附属中央病院」と名称変更した。

函館慈恵院は病院経営のほかに慈善活動を行い、大写真会（映画）も開催している⁽¹⁹⁾。区民の病院経営に対する理解も深く、塩鱈の寄贈や寄付金も多い。函館慈恵院は、その都度新聞に広告を掲載している⁽²⁰⁾。明治38（1905）年4月8日付の『函館毎日新聞』には「金貳円 末広町 加藤文五郎」と見える。



函館慈恵院関係者『函館慈恵院』より

・最上山護国寺との関わり

最上山護国寺は七飯町軍川にあった日蓮宗の寺院である⁽²¹⁾。明治39（1906）年9月に建立された。加藤文五郎は明治32（1899）年から明治36（1903）年にかけて、軍川の土地の払い下げを受けたり、畑地を買い求め、莫大な経費をつぎ込み土地を購入し、15戸の開拓者を入れた⁽²²⁾。この人達のために護国寺を勧請し、御堂を建立した。水田を作り、米ができるようになったのは大正10（1921）年頃であった。加藤文五郎は明治41（1908）年8月3日最上山護国寺へ土地を贈与した⁽²³⁾。小作人へ金銭や粃・白米等の貸し付けも行っている。加藤農場の「水田反別貸付帳」（資料番号H18-0045）や「小作年貢契約證綴」（資料番号H18-0064）からは小作人の名前や貸付反別が分かる。小作人の戸数は『七飯町史』で15戸、「五十町歩以上の地主」⁽²⁴⁾で40戸、「小作年貢契約證綴」で23戸となっている。創立当時は他に寺がないので、周辺の開拓者は最上山護国寺に集まった。『七飯町史』によると、氏子及び檀徒数は500人とある。



護国寺（『七飯町史 続刊』）

宅地・農地と店舗の状況など

加藤家の宅地は明治26年から昭和15年までの土地台帳で⁽²⁵⁾、農地は「五十町歩以上の地主」「小作年貢契約證綴」で確認することができる。

宅地は大黒町34番地（現弁天町12番）と末広町93番地（現末広町18番）にあった。大黒町の土地は32.25坪、末広町の土地は90.77坪・外崖地14.66坪で、この土地は明治40（1907）年9月18日に登記されている。農地は渡島国亀田郡七飯村大字軍川村中通（現亀田郡七飯町軍川）にあった。農地は「五十町歩以上の地主」によると、畑地で所有耕作反別は105.7町歩となっている。開拓が進むにつれ農地も増えたと思われる。

店舗は、明治40（1907）年8月25日の函館大火で類焼した。二年後に同じ場所に西洋造りの店を新築した。店は十数人の店員を雇用する程の隆盛振りだった⁽²⁶⁾。しかし大正8（1919）年加藤文五郎は中風を患い、同12年頃には商売を終えていたようである。

しかし加藤家所蔵資料によると、大正12年以降にもお金を貸した「借用証書」等（資料番号H18-0047等）もあることから、大正15（1926）年11月10日に亡くなるまでは営業を続けていたようだ。

おわりに

加藤文五郎の生涯と事績を辿ってみた。そこから見えるのは、商売に打ち込み、社会貢献や慈善事業にも尽くした姿である。加藤文五郎は「資性温良、苟くも人と争を欲せず深く日蓮宗に帰依して常に精神の修養を怠らず、事に当りては熱誠して其最善を尽くして倦ま」ない人だった。

加藤文五郎にまつわるお話は故加藤宏文氏にご教示をいただいた。お聞きしたお話は可能な限り、他の資料で確認を取った。加藤家所蔵の貴重な資料も見せていただいた。感謝申し上げたい。

註

- (1) 加藤宏文氏のご教示による
- (2) 仙台叢書 第四卷『仙台領古城書上』(大正12年 仙台叢書刊行会)
- (3) 仙台叢書 第六卷『仙台府諸士版籍』(大正13年)
- (4) 戸籍名は剛助。『北海道立志編 第貳巻』明治36年 北海道図書出版合資会社)と『開道五十年記念北海道』(大正7年 鴻文社)は郷介。『函館商工案内』(昭和13年 函館商工会議所)は郷輔
- (5) 仙台叢書 第二卷『仙台孝義録』(大正12年)、『仙台人名大辞書』(昭和8年 仙台人名大辞書刊行会)
- (6) 『仙台市史 資料編3 近世2 城下町』(平成9年 仙台市)
- (7) (1) に同じ
- (8) (1) に同じ
- (9) 明治24年4月2日付「北海」
- (10) (1) に同じ
- (11) (1) に同じ
- (12) 『富の函館』(大正元年 富の函館社)
- (13) (12) に同じ
- (14) 明治44年3月21日付「函館日日新聞」
- (15) 大正元年9月28日付「函館新聞」
- (16) 『富の函館』、『函館商工会沿革誌』(明治30年)、『函館商工会議所百年史』(平成8年 函館商工会議所)
- (17) 『函館市史資料集第一集』(昭和35年 函館市史編纂委員会)
- (18) 『函館慈恵院』(明治38年)、『社会福祉法人函館厚生院100年史』(平成14年 函館厚生院)、『社会福祉法人函館厚生院函館中央病院70年史』(平成14年 函館中央病院)、『函館慈恵院事業要覧』(昭和15年 函館慈恵院)
- (19) 明治42年11月26日付「函館日日新聞」
- (20) 明治38年4月8日付「函館毎日新聞」、明治42年10月26日付「函館日日新聞」、大正元年9月29日付「函館新聞」
- (21) (1) に同じ
- (22) 『七飯町史』(昭和51年 七飯町)、『七飯町史 続刊』(平成13年 七飯町)
- (23) 「土地贈与證書」(資料番号H18-0061)
- (24) 「五十町歩以上の地主」(『都道府県別資産家地主総覧』復刻版 平成7年 日本図書センター)
- (25) 『北海巴港之宝庫』(明治26年 魁文舎)、『函館市土地台帳』(昭和15年 東京興信所函館支所) など
- (26) 『函館商工案内』(大正4年 函館商工会議所)

参考文献

- 『岩手県の地名』(平成14年 平凡社)
『角川日本地名大辞典』
『仙台市史』
『新北海道史年表』(平成4年 北海道出版企画センター)
『北海道実業人名録』(明治27年 北海道実業人名録編纂所)
『目で見る函館のうつりかわり』(昭和47年 函館市)
富原章『箱館から函館へ 函館古地図再現』(平成10年 幻洋社)
富原章『函館の火災誌』(平成16年 私家版)
『函館大火史』(昭和12年 函館消防本部)
『続函館市史資料集2号』(昭和47年 函館市史編さん事務局)
『函館実業者便覧』(明治27年 北洋舎)
『函館有名一覧』(明治24年)
『函館市制実施記念写真帖』(大正11年 村山写真館)
元木省吾『今日はなんの日』(昭和63年 幻洋社)

(古文書調査講座参加者)

参考資料



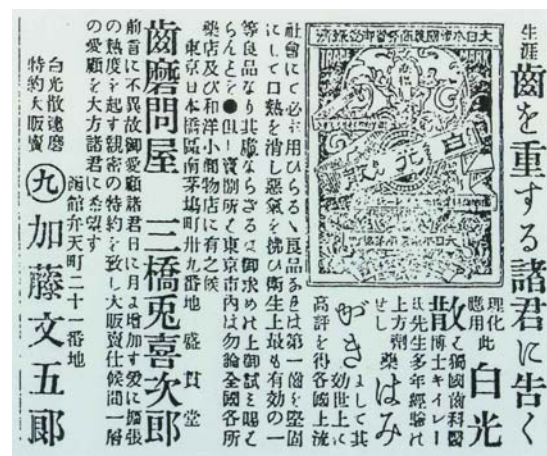
『北海道案内商工函館の魁』（明治18年 函館市中央図書館蔵）



『函館市制実施記念写真帖』（大正11年 市立函館博物館蔵）



「函館実地明細絵図」（明治24年 函館市中央図書館蔵）



明治24年4月2日付「北海」

資料書き下し

「水田反別貸付帳」(資料番号H18-0045)

小作人 □□□□

一、水田 壱町壱反貳畝〇六歩

(表紙)

「大正拾年度改定

加藤農場 水田反別貸附帳」

小作人 □□□□□

一、水田 壱町三反〇貳拾六歩

一、水田 六反三畝 □□□□分引受

小作人 □□□□

大正拾年迄ノ分

一、水田 七反四畝〇六歩

大正拾年秋開キ

一、水田 六反貳畝貳拾歩

一、水田 五反歩

〆壱町八反六畝貳拾六歩

小作人 □□□□

一、水田 八反歩

大正拾年ノ秋開キ

一、水田 五反貳畝貳拾八歩 □□へ渡

〃 三反五畝貳拾四歩 同人ノ門

口引受

一、水 壱反〇九歩

一、水 六畝貳拾歩

浅利分引受

〆壱町貳反六畝貳歩

小作人 □□□□

大正九年度開キ

一、水田反別 五反四畝八歩 □□□□

分引受

〃 年ノ秋ノ分

一、水田 五反四畝貳拾歩

〆壱町九畝歩

小作人 □□□□□

一、水田 壱町壱反歩

内 六反歩交換ノ渡シ

大正拾壱年度春開キ

一、水田 八反七畝拾八歩

大正拾年ノ秋

一、水田 壱反七畝歩

一、水田 五反貳畝貳拾八歩 □□より

引受

〆壱町九反七畝拾六歩

小作人 □□□□□

大正九年開キ

一、水田 壱町貳反六畝歩 □□□□

両へ渡

大正拾年度ノ秋

一、水田 七反貳畝六歩

〆壱町九反八畝六歩

一、水田 壱町四反歩

水車ノ浦八反歩 □□□ノ引受

小作人 □□□□□

一、水田 五反四畝六歩

石黒喜市郎へ譲り

小作人 □□□□□

一、水田 九反九畝貳拾六歩

一、水田 八反六畝拾六歩 □□□□

より引受

〆壱町八反六畝拾八歩

小作人 □□□□□

一、水田 五反四畝八歩 宮本ノ譲り

大正九年開キ

一、水田 壱町壱反四畝拾八歩 元□□ノ

分引受

小作人 □□□□□

大正九年度ノ分
 一、水田 壹町歩
 大正拾年ノ春
 一、水田 壹町歩
 □□□□分引受
 ↗ 貳町歩

 小作人 □□□□
 大正九年ノ分
 一、水田 壹町〇五畝貳歩
 大正拾年秋
 一、水田 五反貳畝貳拾八歩 □□へ渡
 一、水田 六反歩 □□より引受
 ↗ 壹町五反八畝貳歩

 小作人 □□□□□
 一、水田 壹町七反六畝貳拾歩

 小作人 □□□□□
 一、水田 七反壹畝拾八歩

 小作人 □□□□
 大正九年
 一、水田 七反壹畝貳拾六歩
 大正拾年度
 一、水田 六反貳畝拾貳歩
 〃
 一、水田 三反三畝貳拾八歩
 ↗ 壹町六反八畝〇六歩

 小作人 □□□□□
 一、水田 九反五畝貳拾貳歩
 大正十年度ノ秋
 一、水田 三反〇六歩
 大正九年度ノ分
 一、水田 五反四畝貳拾八歩 □□□□□
 へ渡 □□□□□分引受
 一、水田 六反三畝歩 □□□□□より
 引受
 ↗ 壹町八反〇畝拾六歩

八畝貳拾六歩

 小作人 □□□□□□
 一、水田 五反三畝〇五歩
 一、水田 七反歩 水車入口大正拾一年ノ
 秋キ
 ↗ 壹町貳反三畝〇五歩

 小作人 □□□□
 一、水田 壹町貳反三畝貳拾六歩

 小作人 □□□□
 一、水田 七反六畝貳拾四歩
 一、水田 四反歩 十一年度新キ
 ↗ 壹町壹反六畝貳拾四歩

 小作人 □□□□
 一、水田 六反八畝拾七歩
 大正九年度ノ分
 一、水田 水車浦志作地ノ内貸付□□へ渡
 ↗ 六反八畝拾七歩

 小作人 □□□□
 一、水田 壹町五反四畝拾七歩

 小作人 □□□□
 一、水田 壹町貳反〇〇五歩
 大正拾壹年ノ春
 一、水田 三反七畝拾四歩
 ↗ 壹町五反七畝拾九歩

 志作地
 一、水田 貳町七反八畝拾四歩
 大正九年度
 一、水田 壹町七反八畝拾貳歩
 〃
 一、水 貳反四畝七歩
 大正十一年度開キ
 一、 壹町壹反五畝貳歩
~~合計 貳拾四町〇九畝貳拾貳歩~~

合計 三町三反八畝歩

□□□□□

大正十年度開キ

一、水田 七反八畝〇三歩

□□□□

大正拾壹年ノ春

一、水田 壹町貳反壹畝歩

大正拾年度ノ春迄ノ分

一、反別 貳拾四町貳反六歩

拾年度ノ秋ノ分

一、六町九反九畝拾四歩

大正拾壹年度ノ分

一、水田 貳町七反四畝貳拾三歩

合計 三拾三町九反四畝貳拾九歩

□□□□□□

大正拾年度ノ秋

一、水田 七反七畝拾壹歩 □□ノ譲り

□□□□

一、水田 六反貳拾貳歩

□□□□

一、水田 壹町壹反歩

□□□□

一、六反歩

大正十一年二月廿一日

左記ノ件届出造田ニ関スル届

亀田郡七飯村大字軍川村字中通り一〇八番ノ一

一、田 貳町歩 全字一二三番ノ内

一、田 参町歩 全字一二五番ノ内

一、田 壹町歩 全字一〇四番ノ一

一、田 参町歩

右水田ハ、明治三十八年五月以前ニ造成

ノ上、引続キ今日迄耕作ヲナシ居ルモノニ候間、此段及御届候也

大正十一年二月廿一日

函館末広町九三番地

加藤文五郎

保証人 佐藤長治

七飯村

「小作年貢契約證綴」(資料番号H18-0064)

小作年貢契約證

渡島国亀田郡七飯村大字軍川

村字中通道路筋 □ □ □

一、水田 壹町貳反六畝 歩

但シ年貢玄米壹反部ニ四斗入一俵ノ定約

右者、貴殿之所有地内水田前記之通正ニ借用仕候處確實也、年貢上納期日ハ大正十年十一月三十日限リトシテ、玄米精撰ノ上、々納可仕候、小作年貢契約證、依而如件

大正十年五月十三日

軍川村

小作人 □□□□□ 印

加藤文五郎殿

(※小作人名等は伏せ字とした)

資料リスト

収納 番号	資料 番号	資料名（内容）	作成者・受取人	作成年代	形態	数量	書 下
01	H18-0036	(福山砂金鉱書類) 1, 砂鉱権充渡證書（渡島国松前郡上及部村字及部川・松倉川・小股川の砂鉱権） 2, 証書（立替金と礼金返戻につき） 3, 地図	作成者；1, 秋田県仙北郡六郷町六郷東根国？参拾九番地藤岡マサノ 2, 函館区相生町六十一番地佐藤為吉 受取人；1, 加藤文四郎・佐藤為吉 2, 加藤文四郎	1, 大正9年6月29日 2, 大正9年7月15日	状	3	1
02	H18-0037	(金銭借用抵当権設定関係書類綴) 1, 〔土地無償付与願許可書〕 2, 〔道路敷地寄付願許可書〕 3, 〔金員借用抵当権設定登記申請〕 4, 土地売渡証書 5, 土地分筆登記申請	作成者；1, 函館支庁長・北海道支庁長龍岡信熊 2, 北海道庁長官石原健三 3, 陶器権利者（株）北海道拓殖銀行 4, 小川・植田・加藤・本間 5, 加藤文五郎 受取人；1～4, 加藤文五郎 5, 函館区裁判所大野出張所	1, 明治34年6月28日他 2, 明治44年5月27日 3, 大正3年8月22日他 4, 明治32年11月22日 5, 明治41年8月3日	綴	1	2
03	H18-0038	契約証（衛生木炭・衛生経済的可燃性亜炭の専売特許権譲渡につき） (加藤農場関係)	作成者；峯尾隆三 受取人；加藤文五郎	大正6年5月26日	冊	1	3
04	H18-0039	建物充渡証書 (加藤農場関係)	作成者；榎山郡館村字糠野番外地新井浅次郎 受取人；箱館区末広町九拾四番地加藤文五郎	明治36年2月20日	冊	1	4
05	H18-0040	(加藤農場関係) 証明願（新井浅次郎建家3棟の所有証明願い）	作成者；渡島国榎山郡館村字糠野五拾五番地新井浅次郎 受取人；俄虫外六村戸長本間直	明治36年3月26日	状	1	5
06	H18-0041	(加藤農場関係) 念証（敷地代金支払につき）	作成者；渡島国榎山郡館村字糠野五十五番地 新井浅次郎 受取人；函館区末広町九拾四番地 加藤文五郎	明治38年4月13日	状	1	6
07	H18-0042	(加藤農場関係) 借用證書	作成者；渡嶋国榎山郡館村字糠野五十五番地 新井浅次郎 受取人；函館区末広町九拾四番地 加藤文五郎	明治38年4月13日	状	1	7
08	H18-0043	(加藤農場関係) 建家動産物質貸延期ニ関スル契約証	作成者；北海道渡島国函館区大字末広町九拾四番地 住居平民小間物商 加藤文五郎 嘉永五年八月生 受取人；北海道渡島国榎山郡館村字糠野五拾五番地 住居平民農 新井浅次郎 文久式年四月生	明治38年4月15日	冊	1	8
09	H18-0044	(加藤農場関係) 念証（火災保険締結につき）	作成者；榎山郡館村字糠野五十五番地 新井浅次郎 受取人；函館区末広町 加藤文五郎	明治38年4月15日	状	1	9
10	H18-0045	(加藤農場関係) 水田反別貸附帳		大正10年	冊	1	10
11	H18-0046	(加藤農場関係) 水田貸金仕払及仕訳ヶ帳（大正10年度）		大正11年1月	冊	1	11
12	H18-0047	(加藤農場関係) 借用証	作成者；後藤留治・後藤ふじゑ 受取人；加藤文五郎	大正13年5月	状	2	12
13	H18-0048	(加藤農場関係) 借用証	作成者；亀田郡七飯村字軍川中通り塚本善藏 塚本ツネ 受取人；加藤文五郎	大正15年	状	1	13
14	H18-0049	(加藤農場関係) 〔小作人諸品買入仕払〕			状	1	14
15	H18-0050	(加藤農場関係) 〔覚之書〕（最上山護国寺と加藤農場に関する調査内容）	作成者；加藤信子（加藤宏文氏母）	昭和56年11月	状	4	
16	H18-0051	(芦別炭山残務書類関係) 1, 図面（金銀銅水鉛重石鉱試掘鉱区図 山形県東田川郡東村字田麦田麦川上流鉱区） 2, 郵便物配達証明書 3, 郵便物受證	作成者；1, 一 2, 函館区末広町九三 加藤文五郎 3, 函館区末広町九三 加藤文五郎 受取人；1, 一 2, 仙台鉱務署長 福山亀太郎 3, 仙台鉱務署長 福山亀太郎	1, 一 2, 大正7年	状	3	
17	H18-0052	(芦別炭山残務書類関係) 1, 契約書（黒松内村、静狩地内金銀銅鉱式鉱区試掘所有権に関して） 2, ハガキ（記載内容問い合わせ） 3, 図面（後志国寿都郡黒松内村字上来馬 胆振国虻田郡弁辺村字静狩地内鉱区）	作成者；1, 一 2, 中央小樽駅前マルマサ印旅館方 軍司万策 3, 一 受取人；1, 一 2, 函館区末広町 加藤文五郎 3, 一	1, 大正8年1月6日 2, 大正7年10月11日 3, 大正7年9月28日	冊・状	4	15
18	H18-0053	(芦別炭山残務書類関係) 石狩国芦別石炭砒調査報文	作成者；調査主任者 黒田健次	大正8年6月30日	冊	1	16
19	H18-0054	(芦別炭山残務書類関係) 1, 契約書（炭鉱区譲渡に関して） 2, 委任状	作成者；1, 譲渡人 函館区相生町八拾五番地 鈴木乙次郎 2, 大島要三 受取人；1, 買受人 福島県福島市杉妻町八番地 大島要三 2, 一	1, 大正8年9月21日 2, 大正8年9月21日	冊	1	17
20	H18-0055	(芦別炭山残務書類関係) 通知書（石炭鉱区売買契約取消通知ノ件）	作成者；福島県福島市杉妻町八番地 大島要三の代理人 北井波治目 受取人；函館区相生町八十五番地 鈴木乙次郎		冊	1	18

収納 番号	資料 番号	資料名（内容）	作成者・受取人	作成年代	形 態	数 量	書 下
21	H18-0056	(芦別炭山残務書類関係) 1, 證（石炭鉱区売買契約） 2, 委任状	作成者；1, 北井波治目（大島要三弁護士） 2, 福島県福島市杉妻町八番地 受取人；1, 鈴木乙次郎 2, 一	大正8年10月18日	綴	1	19
22	H18-0057	(芦別炭山残務書類関係) 大日本製炭鉱業株式会社趣意書	作成者；軍司万策	大正8年11月1日	冊	1	20
23	H18-0058	(芦別炭山残務書類関係) 収入伝票、納税告知書、領収済通知書、領収證書	作成者；税務署 受取人；北海道函館区末広町 加藤文五郎	大正9年12月1日	状	1	21
24	H18-0059	(芦別炭山残務書類関係) 図面（石炭鉱試掘所有権区分図）		大正	状	1	
25	H18-0060	(芦別炭山残務書類関係) 図面（石炭鉱試掘鉱区連絡図 石狩国空知郡芦別村官有地第一種御料地）		大正	状	1	
26	H18-0061	(軍川農場書類) 土地贈與證書（写）	作成者；函館区末広町九拾四番地 加藤文五郎 受取人；亀田郡七飯村大字軍川村字中通百拾五番地 最上山護国寺殿	明治41年8月3日	冊	1	22
27	H18-0062	(軍川農場書類) 金員借用証	作成者；千葉 綏、千葉ハシメ 受取人；加藤文五郎	大正13年7月3日	状	1	23
28	H18-0063	(軍川農場書類) 当座貸越根抵当権一部解除証	作成者；札幌区大通西参丁目七番地株式会社北海道拓殖銀行 支配人 林慶太郎 受取人；加藤文五郎	大正10年7月25日	冊	1	24
29	H18-0064	(軍川農場書類) 小作年貢契約證綴（22人分）	作成者；軍川村小作人 斉藤権四郎外21人 受取人；加藤文五郎	大正10年6月10日	状	1	25
30	H18-0065	(軍川農場書類) 水田小作年貢取立帳		大正11年12月15日	横冊	1	26
31	H18-0066-1	(軍川農場書類) 地價設定申請と測量図（亀田郡七飯村大字軍川村字中通）六番）	作成者；小林測量事務所 受取人；加藤文五郎	大正11年9月	状・綴	3	27
32	H18-0066-2	(軍川農場書類) 借用証文	作成者；千葉 綏、千葉ハシメ 受取人；加藤文五郎	大正13年7月3日	状	1	28
33	H18-0066-3	(軍川農場書類) 〔水田小作地等級帳〕			横冊	1	29
34	H18-0066-4	(軍川農場書類) 1, 金員借用証 2, 金子借用証 3, 借用証文	作成者；竹友鳴三郎 受取人；加藤文五郎	1, 大正14年6月22日 2, 大正13年7月3日 3, 大正13年7月3日	状	3	30

＜資料紹介＞

館蔵「笹野家関係文書」の紹介

保科 智治

笹野家関係文書について

当該文書は平成21年度に笹野家から寄贈された文書の資料群である（資料番号H21-0193）。資料の整理は、当館の古文書調査講座参加者によっておこなわれた。資料は水損のためあまりよい状態ではなく、開封困難なものや欠損の激しいものがある。

整理作業は、基本的に資料一点ずつを封筒に詰め、資料名や内容を封筒に記入していった。封筒の記入内容を元に資料リストを作成した。資料には書翰類が多く含まれており、内容が多岐にわたることから、掲載した資料リストには内容の一部のみを記載した。また作成年代については、文脈などから年代を推定して記載している資料もある。資料出納の関係から、資料全体の資料番号のほかに収納番号を付している。以下に紹介する資料にもその収納番号を付した。資料リストには、書き下し文がある資料については、書き下しの番号を付している。資料リスト作成後に、登録に適さない資料があり、一部欠番としている。

整理の結果、569件629点となり、その内357点を解読した。作成年代は、大半は明治25（1892）年から30（1897）年にかけてのものである。明治25年の資料は電報が多数を占める。明治29（1896）年の資料では、その年に発生した大火に関わり、火事見舞が多数を占める。樺太（サハリン）やロシア領での漁業活動で知られる笹野家の様子を、垣間見ることができる資料も含まれている。限定的ではあるが、函館商人の実像の一端を伺うことができる文書群である。

笹野栄吉について

当該資料の受取人は、ほとんどが笹野栄吉である。栄吉は安政6（1859）年4月5日に能登国羽咋郡西海村風無（現石川県羽咋市）に生まれ、大正10（1921）年3月5日に函館で没した。

下記「履歴書」によれば、幼少期から父親の船に乗り、明治17（1884）年25才の時、所有帆船の船長となっている。翌年にはサハリンに進出し漁業をおこなっている。その後、函館汽船株式会社、函館貯蓄銀行、函館銀行、北海道機械網株式会社、樺太漁業株式会社、渡島鉱業株式会社、樺太物産株式会社、日魯漁獵株式会社などの役員を歴任している。（山口精次氏作成「笹野栄吉の役員歴」より）



笹野栄吉（『北海道在住加越能人名録』
大正5年 鴻文社より）

履歴書

原籍 石川縣能登国羽咋郡西海
村字風無

当時北海道渡島国函館区弁天町
十三番地

平民漁業 笹野栄吉

安政六年四月五日生

- 一 幼ヨリ父ノ業ヲ航海業ニ従事ス
- 一 明治十七年、乙種二等運転手ノ免状
ヲ請ケ、自ラ所有ノ帆走船長ト為リ、
各港ヲ航海スルコト二年
- 一 全十八年、初メテ露領薩哈連島漁業
ニ従事ス
- 一 全年ヨリ現今迄函館汽船株式會社取
締ニ就任
- 一 全十九年ヨリ全廿五年迄旧薩哈連島
組合總代ニ就任
- 一 明治廿二年、漁業視察ノ目的ヲ以テ、
所有帆走ニテ露領ニコライツクニ渡航
シ、爾後二年間該地漁業ニ従事ス
- 一 全卅四年ヨリ北海道機械網株式會社
専務取締役就任
- 一 現今露領薩哈連島漁業ニ従事シつゝ
アリ

右之通候也

明治三十五年四月七日 笹野栄吉

(寄贈者提供コピーより)

資料紹介

資料群の中からいくつか特徴的な項目ごとに資料を抽出して、以下に紹介する。合わせて当館所蔵の関連資料についても紹介したい。

資料の解説をおこなったのは、すべて当館古文書調査講座参加者である。

・「ロシア公使館」鈴木於兔平

当該資料の中に「鈴木於兔平」という人物から笹野栄吉宛に出された書翰などが9点残されている。それらについて紹介する。

資料 1

内容「一二〇ウケトツタ」

差出人「ロシアコウシカン ススキ オ
トヘイ

受取人「ハタコ丁四〇ハンチ ササノエ
イキチ」

(収納番号0032)

資料1は明治25(1892)年6月6日に発信された電報である。この電報から、「鈴木於兔平」なる人物は「スス(ズ)キオトヘイ」と称し、「ロシアコウシカン」に勤務していることが伺える。別の資料から「ロシアコウシカン」は東京虎ノ門にある「ロシア公使館」であることが分かる。内容については、この文面だけでは不明である。

鈴木については、当館所蔵「小島倉太郎関連資料」(資料番号H20-0049～0054)の中のアルバム内にその写真が残されている。小島倉太郎は明治初期、開拓使などでロシア語通訳として活躍した人物である。(詳細については、大矢京右「資料紹介「小島倉太郎関連資料」」『市立函館博物館研究紀要』第20号 2010 参照)

鈴木 の略歴は、以下の資料によると、文久元(1861)年幕臣の子として生まれた。明治13(1880)年に東京外国語学校を卒業し、15年にシベリアを訪れている。その後、恐らくロシアとの貿易に携わり、東京外国語学校の教授になっている。小島は14(1881)年に東京外国語学校を卒業している。小島も幕臣の子で、鈴木より年は一才年上である。ロシア公使館に勤務していたことについては触れられていないが、恐らく貿易に携わっていた頃と思われる。蛇足ではあるが、笹野栄吉、鈴木於兔平、小島倉太郎の3人とも年齢が近い。笹野と小島については、残された資料からでは接点は見られない。

鈴木於兔平君

君は旧幕臣鈴木喜平次氏の長男にして、
文久元年を以て生る。露語の精通家にして
貿易事業に従事す。後東京外国語学校
教授となり現に其職にあり、先に正六位
に叙せられたり。

(『現代人名辞典』大正元年 中央通信社)

鈴木於兔平

正五位勲三等、東京外国語学校教授、東京府平民

妻 音 明四、六生、東京、士、只本寿
逾 妹

男 進 明二九、一〇生

男 勇 明三三、一生



集合写真（後列中央が鈴木、前列右から二人目が小島）（明治25年3月15日 東京芝新シ橋角 丸木利陽写真館）

（「写真アルバム3」 資料番号H20-0049より）



鈴木於兔平肖像写真（明治25年6月6日 東京新橋丸屋町三番地 福山館写真 江木支店）

（「写真アルバム3」 資料番号H20-0049より）

君は東京府平民鈴木喜平治氏長男○文久
元年九月生○明治十三年東京外国語学校
卒業○同十五年西比利亜漫遊○会て貿易
事業に従事○外国語学校教授に任せらる
○長女きみ（明二六、六生）は熊本県平
民石原直記二男勝に嫁せり

(『人事興信録』大正10年 人事興信所)

資料2

謹賀新年、併而本年モ不相替御愛顧ヲ乞
フ

拝啓本年モ愈々一月一日之新年トナリ来
タリ、御互様ニ目出度哉目出度ナイカ知
ラナ、其又々老藹之年齡ヲ加重シ来タル
ハ閉々之極、然シ満堂無事御越年ト遠察
致シ、茲ニ謹テ寿歳ヲ祝シ、併而満堂之
満福ヲ祈候、扱テ先頃不得止代理公使ノ
命ニヨリ、水産会ニ於テ致タシタル談話
之模様、此度報告書ニ上リタリトテ、同
会ヨリ公使并拙者へ宛テ数部寄送致シク
レ候、同一部貴下へ通送御披閱被下度候、
御一読ノ上ハ分明ナラシガ、勉トメテ事
実ヲ小生等ノ都合ヨキ様陳述出タル次第
故、決テ御心配被下間敷此段念ノ為メ申
上候

一 先頃寺見氏帰京段々□□候得共、同
氏モ彼ノ指令書ニ就而ハ別段何等ノ意見
モ無之様子、只同氏ノ嚟ニハ先頃セメー
ノフ氏ヨリ二橋事務官へ、本年ヨリ小生
等ト合同ノ上、漁業ヲ當度希望ヲ申出候
由ナルガ、之レモ寺見氏、二橋ヨリ又聞
ノ上ナレバ巨細ハモト不分明ニ候、何レ
大兄ノ御上京ヲ待ち、寺見氏ヨリセメー
ノフ氏ニ関スル意見ヲ可聞ト存居候

一 寺見氏ヨリ大兄へ鮭魚ノ謝辞宜敷ト
ノ代願ニ御座候、先ハ新年ヲ祝賀旁々用
子マデ如此ニ御座候 早々

明治廿六年一月一日

鈴木於兔平

笹野栄吉様

御一同様へ宜敷願上候、家内ヨリモ宜敷ト申上候

(収納番号0111)

資料中に出てくる「セメーノフ」は明治32(1899)年に函館で登録された「セミーノフ商会」(『函館市史 通説編第3巻』「デンビー商会の盛衰」参照)に関わる人物と思われる。ロシア沿海州や樺太で漁業を展開していた笹野にとって、鈴木は重要な情報をもたらす人物であったと思われる。

笹野は『函館区史』では明治25(1892)年、『函館税関統計報告・中巻第5編』では明治26(1893)年にニコラエフスクに進出し、沿海州漁業の先駆者的存在とされる。このニコラエフスクの進出にも鈴木が関わっていたのかもしれない。明治26(1893)年8月27日付けの書翰(資料10)では、笹野の沿海州進出を「偉業」として讃えている。しかし、当該資料の中に、前出の笹野栄吉の「履歴書」には「明治廿二年漁業視察ノ目的ヲ以テ、所有帆走ニテ露領ニコライツクニ渡航シ、爾後二年間該地漁業ニ従事ス」とあり、すでに明治22(1889)年からニコラエフスクに進出していたようである。

資料3

拝啓、昨夜ハ御邪魔仕候、扨本日午后家内同道参館仕度存念候間、此段一寸御一報致、急ク丈も御用有之ば御遠慮ナク御外出被下度、さスレバ細君丈ニ御面会可致、此義一寸申断候、但し三時頃ニ伺可申候

(収納番号0163)

資料4

拝啓、昨日ハ失礼仕候寺見氏カラ返信ニハ本日ハ午后三時限り明日午前九時限り

ノ趣ニ有之候得ば、小生ハ到底来館致兼候得共、先ヅ返信之趣大至急申上候

二月廿五日

(収納番号0165)

資料3・4は、鈴木から笹野に宛てたハガキである。資料3は日付は書かれていないが、資料4の前日に出されたものである。笹野と鈴木の親密さを示す資料である。「参館」とあるのは、他の資料にも見られるが、笹野はしばしば東京に滞在している。その滞在先が京橋区にあった「蓬莱屋」という旅館である。笹野は夫婦で滞在している様子で、鈴木も夫婦ともども知り合いの仲であるようだ。

資料5

拝啓、時下益々御清壮奉賀候、先頃函館発貴墨ニ接シ、無事御着函之義拝承仕候、御書面に據レバ東京經由帰函之手筈ナリシモ、汽船之都合ニヨリ御直航ノ趣承□□先頃貴下御一同御滞在中ハ、毎度先禮ノミ致居奉謝候、其居御令閑ニハ御帰函ノ居、益御強壯之事ト遠察致シ居り候、次ニ御家一同無事消光罷在候間、乍憚御存念被下度候、貴書ニ據レバ、目下米價ハ七円二三十銭ノ由結構之義ト存居候、然シニコ印ヘ向テ、小樽人某出発可致トノ報道ニ少數不愉快ノ懸ナキニアラズ、尤モ先頃斉藤豁三郎上京、同氏ノ嘶ニ本年ハ小樽人某北上スベキニ付キ、其節小生モ同船ヲ願ノ之ニコ印ニ於而各ツ□ノ上、冬期氷上ニ橈ヲ飛バセテ遠ナリカムサツカ近傍ニ探検ヲ試ミ度様申居候間、本年ハ黒龍丸上義競争者ヲ見ルワナレ共限ラザルベシト存居候處、大兄ノ御報ニ接シ茲ニ全テ競争者ノ顕出セシヲ承知セリ義、競争者果テ如何之運動ヲカナス面白キ事ニ御座候

一 先頃鈴陽氏ノ書翰ニ接セリ、書中「北

上之途次相顔ヲ得ハ期ヲ見テ相待申居候、特ニ本年ハ兄ノ為メ大ニ談判ヲ重ネ度義有之、尚更相待居申」言シト有之、就而ハ本年モ是非寄港ノ心得ヲ以テ北上スレバ、特別ノ次第ト云フ彼ノ件モ恐ラク本年モ行ナワレバク哉ト存居候バ、大兄ノ御考ハ如何ニ御座候哉

一 大隊長ノ注文品ナル白反物ハ、慥カ寄書紬哉被存得共、若シヤカネニテハ無之哉、大兄ノ御考御報知被下度、実ハ近頃ニ成リ疑念起リ閉々致居、伏テ御尋ニ及々次第ニ御座候、但シ桃色ハ西京ヘ注文ノ上染上ゲネバ、能ク仕上ガラザル趣ナレバ、本年桃色ノ分ハ折帶致兼候義ト存居候

一 大兄ノ御考ニテハ、今回ハ何時頃函館出發ノ御積リニ候哉伺度候、先ツ用子否不取敢申上候 早々

五月五日

鈴木於兎平

笹野栄吉様

二白、御序有之候得者、拙者等夫婦ヨリ貴殿ト一言御国元ナル御令閨ヘ御傳被下度願上候

一 小生預テノ茅屋ヲ下国御徒町ニ所有致居候處、去ル三月廿八日和泉町ヨリ出火、寸時ニシテ小生ノ家屋モ烏有ニ帰シ、家具ハ勿論衣類等モ大方焼失致シテ大閉口仕候

(収納番号0193)

明治26(1893)年5月5日付けの鈴木から笹野への書翰である。

斉藤豁三郎から小樽の情報がもたらされている。斉藤はニコライ神学校でロシア語を学び、後に函館に進出しロシア人と共同で漁業をおこなったり、ロシア貿易に携わった人物である。

当館には斉藤豁三郎に関する資料が数点ある。(肖像画(資料番号500049)・写真

(資料番号500050)・看板(資料番号601068・601069・601070)(これについては、市立函館博物館館報『サラニップ』18 1978参照)・茶匙(資料番号S56-0009))

文中に「鈴陽氏」と出てくるのは、サハリンのコルサコフに居住している鈴木陽之助という人物で、笹野との詳細な関係は不明であるが、サハリンの情報等を提供していたり、コルサコフでの笹野の商活動を支援していることが資料12等に見える。

資料6

拝啓、爾来御一同御揃奉賀候、次ニ生義無事ニ罷在候間、左様御放念被下度候、下谷宅焼失ニ付テハ御見舞被下有難存候、一家内無事立退、目下下谷ニ長町ニ転居候間、左様御休神被下度候

一 小樽商業ニ付テハ巨細ニ報道ニ預り了承仕り、当荷ニハ只一回面会致シ、其后彼ニ動静モ承知不仕候處、此頃知人之囁ニハ同人篤ニ本地出發、汽車ニテ北上致候欣ニ御座候、定メシ同君ハ貴地乃至小樽辺ニ有之候事ト被存候

一 予テ之想像通り、田中ニハ鮭魚漁獲準備之為メ来函、然ニ御書面ニ拠レバ久徳丸不幸ニモ破船致候趣、田中等折角之事業モ全ク画餅ニ属シタル次第、実ニ氣之毒ニ被存候、トコロゴ旧船長高念氏解雇ナラレ候ニ付テハ、今般旧久徳丸船長雇入候テハ如何トノ事ニ有之、小生ノ考ニハ寧ろ口氣ノ知レヌ船長ヲ雇と之レニ彼地ノ漁況ヲ窺ハセシムルヨリ、彼ニシテ全ク老練之船長タル資格アラバ御雇入アツテハ如何ニ候欣ト被存候、然シ田中も同船帰宅致度趣ナレバ、将来ニ彼ノ一身上別段考慮スベキ事ナケレバ雇入敢而不都合ナキ義ト推察罷在候

一 先頃ニテ既往島田氏ヨリ書状ヲ得タリ、書中黒戴郷右夏即チゲン漁場ノ河衣ハ昨秋充分之漁獲アリタリ、然ニ本夏ハ

頗ル薄漁ノ趣ナリシ直段ハ百尾十五枚乃至四枚、即チ平均方七枚ノ相場ナリシト、又々昨年ヨリ鮭魚ヲ引受ケシ独乙人エツケルマンハ、本年夏ハ小帆船ナレバ四艘、大船ナレバ二艘、魚積入レノ為メ来ルベシト申居由云々ト申来候、右参考ノ為メ一寸申上候

一 御送付之手形本日鈴木氏方江持参金三百円正ニ落手、其内百二十円丈小生ノ分トシテ拝借仕候間、左様御承知被下度、又タ送品之義ハ艸々仕入ニ取掛リ乍申、先ハ入金之趣御報致度、不取敢如此ニ御座候

五月十日

鈴木於兎平

笹野栄吉様 貴下

家内ヨリ宜敷ト申出候

(収納番号0195)

明治26(1893)年5月10日付けの鈴木から笹野への書翰である。

資料2の書翰にも名前が出てくる「セミヨーノフ」の記述がある。セミヨーノフなどの動向を鈴木に伝えているのは「島田氏」という人物である。この書翰では島田がどのような人物かは不明である。当時ニコラエフスクに居住し、貿易などの仕事に携わり、明治29年に島田商会を設立した島田元太郎のことか。島田商会は、大正9(1921)年のパルチザン襲撃による尼港事件のため衰退した。(当館所蔵品にも尼港事件に関する資料がある。砲弾 資料番号501177・救済金関係書類 資料番号H16-0007～0010)

書翰後半に「三百円正ニ落手、其内百二十円丈小生ノ分トシテ拝借仕候」という部分がある。明確なことは言えないが、笹野から鈴木に対する情報提供に対する対価なのだろうか。資料1の電報の文面「一二〇ウケトツタ」はこのことを示すのだろうか。

もう一つ気になる点としては、残りの180円である。資料5の後半に「大隊長ノ注文品ナル白反物」という部分がある。これも詳細は不明であるが、贈答品を示すものと思われる。商売や漁業活動を円滑に進めるための対価なのだろうか。

この書翰からは、笹野がロシアを舞台に活動していくための情報収集の様子と、それを取り巻く人的関係を伺うことができる。

資料7

拝啓、爾来御無音ニ打過候處、益御壮剛奉賀候、小生方一同無事消光罷在候間、乍憚御放念被下度候、扱而本日新紙之報道ニ據レバ貴地ニハ稀有之大火有之旅籠町も全々鳥有ニ帰し候様承知仕り候、驚ク喫申候貴家ハ幸ニ御避難相成候哉、如何心配之余り御伺迄候、早々

八月廿八日

(収納番号0308)

明治29(1896)年8月28日付けの鈴木からのハガキである。

明治29年8月26日、弁天町を火元に2,280戸を焼失する大火が函館で発生した。旅籠町にあった笹野の家は難を免れた。この火事に関する見舞いの書翰類は各方面から来ており多数残されている。この大火にまつわる当館所蔵資料としては、弁天町にあった巖島神社の山車人形(「恵比須三郎人形」資料番号601104)が難を免れ残されている。

資料8

拝啓、先夜ハ甚ダ失礼仕候、扱テ寺見氏方テ書信ニテ相窮候處、明日以後ハ在宅之趣ニ有之候、然し可成前以テ来訪之日時一報有之度様申参候間、乍御手数其前御報被下度小生ヨリ改ラタメ右ノ趣申遣ハスベク此段御不在之際候間、書状ニテ

申上候、早々
二月十一日

おと平

笹野栄吉様 貴下

(収納番号0440)

作成年不明の鈴木からの書翰である。資料2にも出てくる「寺見氏」への面会の件について書かれているので、資料2と同様に明治26（1893）年のものかもしれない。

資料9

拝啓、其ノ后ハ御無音ニ打過失禮之段御海容奉祈候、扱テ待チニ待チタル浦塩知事ノ指令書漸ク一昨日貿易事務官之橋本ヨリ書留郵便ニテ到着致シ、一読ノ上直チニ翻譯致シ御送附可申上筈ノトコロ、不相替多忙之為メ漸ク本日ニ至リ訳シ上ゲ候間、同封ニテ差出中候、御閱讀被成度候

一 豫テ御承知之通り小生ヨリノ願書出京居数年間旧之通り許可アリ度申出候得共、如何ナル次第ナル哉御覧ノ通り只壱航海季ト有之、失望ノ至ニ候、壱航海季トハ、即チ明年壱年間ノ意味ニ有之、又タ自漁ヲ単ニ夏鮭ニノミ限リタルハ、是レ又タ解釋中ニ苦シム一段ニ有之、元来鱒魚ノ如キモノユフ、漁獲ヲ許ルスベキモノナルベキ之夏鮭ヲ指定シテ、鱒ヲ云ハザルハ不審千萬ノ義ニ有之候、然シ鱒魚ノ如キハ、茲ニ改ラタメ云フベキ程ニアラザル魚類ナレバ、反ツテ之ヲ不問ニ措キタルヤモ、難斗被存候其他秋鮭ニ至リテハ、指令書中云フトユルナケレトモ、壱千八百九十一年ノ御方ニ基キ云ニト有之上候、秋鮭ハ購買輸出聊カモ差支無之義ト推察罷在候、何レ指令書并将来ノ商、漁忒件ニ関スル貴下ノ御高論并小生ノ卑見ハ、御上京之節□ニ陳述、且ツ□ニ拝聴可仕候

一 先便テ申上候通り、過日水産會ニ於テ□義ナリ演述致タル漁業談ノ概略ハ、時事新報紙上ニ掲載相成候間、定メテ御一読被下タル義ト存候、演説ノ主意ハ黒龍江漁業ノ不利ナルヲ切論致タシ、近々漁業規則ノ制定書ヲ定メ、魚族ノ濫獲ヲ禁止スベシナド務トメテ世人之注意ヲ冷却セシメタレバ、其后網走ニ於而オヒヤウヲ漁獲スル尾立龍雄ナル人ニ面会セシトキ、同人云ハリ拙者ハ数年前ヨリ黒龍江之漁業ヲ希望致居、自分ノ考ニハ江流漁ヲ以テ決流シ居ルベシナド、頗ル望ヲ勝レ居タルニ、茲ニ大兄ノ演述ヲ聞キ、推測ト實際トハ斯クモ相違スル哉ト一驚ヲ喫候ト申タリ、小生ヨリ其折上合宜リ□□候、何レ小生演述ヲ気池水産會ヘ依頼シ、一部述□クレ候様可致存居候間、落掌次第御一覽ニ可供候

一 数日前□□□ヨリ、書翰ニ接セリ書中ニコ印ト當港トノ間ニハ、「バイカル」号ノ定期船便アルニ係ハラス、又不漁ニテ定メシ閑隙アリシニモ係ハラス、如何ニシテ同地ニアリシ間御通報下サレザリシ哉、甚タ不満ニ存申候、言ニイ申之沢山ナル長小言ヲ並べ、未タタルニハ閉口致タセリ、何レ明年ヲ以テ辨解ヲ試ヲベルト存居候

一 先ハ指令書到着翻譯ノ上、御送旁々御□居伺申上候、余ハ御上京ヲ待チテ□ニ可申上候

十一月十三日

鈴木於兎平

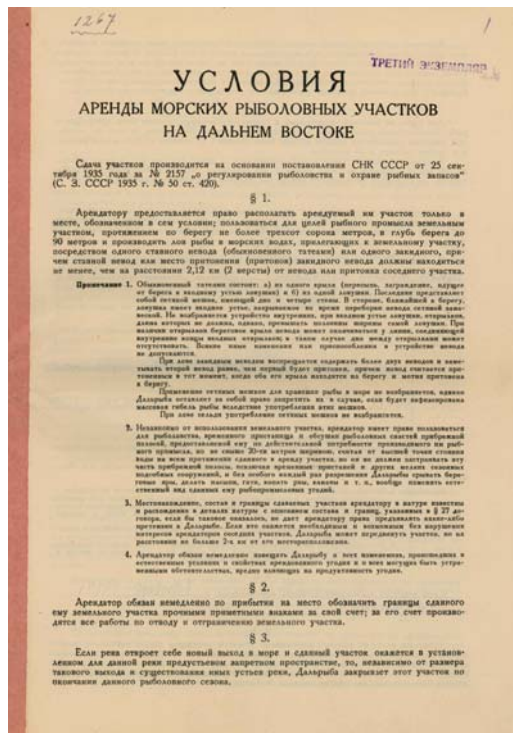
笹野栄吉様 貴下

家内ヨリ御一等様ヘ宜敷ト申出候

(収納番号0511)

作成年不明の鈴木からの書翰である。資料2に出てくる水産会の報告の話があることから明治26（1893）年と思われる。

「待チニ待チタル浦塩知事ノ指令書」が



漁場免状（表紙部分 資料番号H9-0349）

届き、鈴木が翻訳をして笹野に渡す旨が書かれている。指令書の内容は不明であるが、恐らく漁業活動に関するものと思われる。笹野がニコラエフスクに進出するためのものであろうか。当館所蔵資料の中には、日魯漁業（株）に関する、ロシア領における漁場免状（資料番号H9-0349他）や契約書（資料番号H9-0429）がある。

以上が当該資料に残されている鈴木於兎平の書翰類である。笹野がロシア領に進出する上で重要な役割を果たしたであろう鈴木が存在と関係性について、多少ではあるが伺い知ることができると思われる。

・沿海州・樺太での活動

笹野の重要な商活動である沿海州・樺太漁業などに関する資料について紹介する。

資料10

貴地者如何、當地者稍ニ減暑致し候ハ、

早□白衣麻衣等者無用之見□□者、御道中御渡海に無御故障御着地之段者、一大礼説を挙げて躍賀候、御訪問之降而下生儀一同平性之殺にも死セざる性質を以ても相変健康に消日罷在候間、御寸慮も御心附無之様御放神被下度候

陳者、御渡中者本邦人之昔時より氷海よりも思よりも甚たしき暴海、誠に御初渡之事故定めし日者眩□れ腹者吐□口者為に用を為さず、話すにも知己人者無く、身体此に窮り、天に仰て嘆息し、地と思へ者之れ只一つ海水、只轟之褒言を發する之み、天亦無情にも一つの助言なさず、只茫然神拂の加護を待つるの已にして、地の一端草木者青々として、昔時コロンブス之發見も斯くあるべしと、祈眼前に横前ニ無神經に眠れり見ル、□□者君カ

身体を運びて地上ニ置けり、此境界なる点に接したる君の情を如何借日之亜米利加發見之喜も、君が喜情に者後に□着せられたる者違背なしと、愚考之致處如何に候哉、顧回すれ者實に古人之金言者宜なり、天者幸福を只與へず困難窮身も猶之を堪へん者に者與へんと、君者己ニ渡海なる一難を貫したり、笑う人も有ん渡海何ぞ為し難からんと、□笑すべし青年にして君が如き万里之波浪を越へて事業を起せし者を哉人ある哉、一年之中に数へらるべし日本人幾人ある哉、四千万之中数へらる者者為す業難にあらざるべからず、故此後之難者勉めて行けるべし異日大事業を遂げらるゝ者□を焼くに似たり勉めや勉めや、扱て御上陸後者如貴命嘸御困却被為□候者、下生一同毎日毎時毎分相談し居候也

二伸

当地に者来る九月四日より三日間、金澤舊候前田慶寧公昇位之祭礼、金澤開拓三百年祭よりも一層繁盛之由、其景者後便に□書へく候也 頓首々々

(収納番号0212)

金沢の小村という人物が明治26（1893）年8月27日付けで、サハリンのコルサコフにいる笹野留吉に宛てた書翰である。資料2のところでも述べたが、その「偉業」をコロンブスのアメリカ発見と比較して讃えている。

資料11

時下追々秋冷ニ相成候処、御地御尊家皆々様益々御壮健の由奉賀上候、退テ私義も無事消光罷在候間、乍他事御休神被成下置候、陳者遠々敷御紙面も差上不申失敬之段平ニ御用免被下、就テハ樺太御漁業の事も今度御下りの北海道丸ニテ鳥渡聞及候得ば、夫し之何れノ場所も八九分通り之御漁業ト儲取有、誠ニ御喜びの御事ト推察セリ、扱テ此地も本年ハ惣計拾八艘下船ニ相成候得共、皆々夫々荷物お買入登船ニ相成、小生共ハ今年ハ漁場許可ニ相成、ニコライスクヨリ拾里斗リ下リテ（プロング岬）の差向へ（ターバフ岬ニ武家作立網致候得共、式号の方ハ本船ヲ切藏ニシテ、壱号の方ハ図ニ樺太並の小屋ヲ致セリ、依テ武家作ニ九百五拾石取揚タリ、其荷ヲ今度北海道丸ニ積入御主人様御登りの様子、我等等ハ是ヨリ九月下旬頃迄、秋味見込ニ残ル事決定セリ、夫ニ就テハ只今北海道丸会計様ニ（ルーフル錢五拾円丈預ヶ送りタル故、御調査之上御受取預け置き被下、而シテ日本錢ニト交換スル様ニ御依頼申上候、猶亦愚宅ノ小伏障ハ主人小川様ニ依頼致置キ候故、若シ老母ニテモ親交ニテモ死亡致候得ば、其内貳拾円ニテモ三拾円ニテモ宅送り礼出しヲ致ス様ニ御依頼申上候、且ツ承り候得ば、余程米も騰貴之生ツゞゑテ諸色も如何ニ候哉、此地ハ日本船余多入船ノ事故、品々皆下落セリ、何事も為本印万事兩人共ヲ宜敷御依頼申上候、

時候追々御身ヲ御大切ニ厭ヒ奉養專一ニ奉存候、先ハ当用迄取急キ乱筆御受被下度候、恐々頓首

別紙差上可孟御舍弟様へも宜敷御鳳声被下度候也

明治廿九年八月十九日書キ

ニコライスク 済藤様方

大椿仁太郎

笹野栄吉様江

(収納番号0279)

ニコラエフスクにいる大椿という人物からの書翰で、ニコラエフスクの状況等が報告されている。笹野が進出してから3年程が経ち、順調に経過している様子である。

明治26（1893）年9月13日付けの、石川県羽咋郡西海村にいる「笹野家内」からの書翰（収納番号0216）では、大椿は函館の「笹野支店」にいる。このことから、大椿は笹野の支配人クラスの従業員と思われる。

資料12

過日舞子号重船出来ハ毎日之風吹き之続キニテ、利尻島ニモ二日間投錨シ、拙者共モ非常之困難ヲ尽シ、着哥后モ例之通り三昼夜間之檢疫ヲ食イ、都合函館出帆日ヨリ七日目漸ク明早朝上陸仕候、実ハ在船中拙者モ種々商店之儀ヲ案スルニ、雅兄ヨリモ仰付ケラレシ通り、拙者事着哥スルヤ否ヤ、鈴木陽之助殿ト御相談ヲ尽シ、金錢貸借之勘定ハ仕払フヘキハ仕拂、尚此后暫ク新築ノ方ハ鈴木様ニ依頼シ、拙者ハ直様該舞子ニ帰函仕、再ビ仕入品ヲ千吉・千穂国其他之船ニ積込之出哥（未タ店モ出来セザルコト故）、来年壱月ヨリ開店仕ヘリトノコトニ在船中之折ハ略決心致居候、併ナガラ過日モ申上候通り、拙者共上陸スルヤ否ヤ出帆トノコト、其レニ鈴木令閏ニハ帰邦トアレハ、

鈴木主人之御多忙一方ナラズ、迎モ右之相談杯モ為ス隙杯ハ無之、泣シナガラ該船ニテ帰函スル訳ニモ不参、其俣残哥セシ次第ニ御坐候、而シテ船モ出帆シテ、昨夜杯ハ極しづかニ相成候ニ付、應々主人ト相談ヲ尽シ、種々相談モ仕候へ共、鈴木主人之積リニテハ今暫ク大工ノ此地ニ滞在スル中ハ、彼是之差図杯モ有之事故、拙者ヲ哥港ニ滞在サセストイフモ出来内廻リモ出来、通常住居ノ出来ル様ニコシラエ上ゲ、拙者ニモ本冬ハ越年ゼス帰邦スベシトノ仰ニテ、直ニ私ヨリ又々拙者ノ今迄見込ミシコトト相違、実ハ拙者事ハ若都合悪ク、秘か笹野商店ニ越年シ不成モ、非常何レカ人ノ不足ナル商店ニデモ頼ミ、越年スル心算ニテ兄トモ相談致来り候間、細々申述候へ共、皆ニクササレ且ツ又拙者事帰邦ストモ何ノヤクニモ立タス、何等ノ仕事モ無之誠ニ家之者共ニ對シテモ、自分之為メニモ不為、去リトテ多クノ費ヲ投シ、出京魯学ヲ学フ杯ハ尚サラ不参コトナレハ、迎モ本冬之越年ハ主人之仰トハ申者之兄上之許ヲ不得ザル上ハ、日本へ帰ル心地ニハ相成難ク由御話申上置キ候、尤モ本年ハ吉岡氏モ出哥無學束、将又迎モ冬中ニ開店ノ出来ザルコトトシテ見レハ、日本ニ居リテ春初便ニ仕入品ヲ積込ミ来リ、開店スルコトニスレハ少シ都合ノ宜シイ處モ有之、壮年者ノクセトシテ、波是心クルイ困り居候間、帰邦致ヘリヤ将他商店ニ頼ミ、当地ニ越年スベキヤ、誠ニ申兼候へ共、当手紙着次第五円ヲ兼投セラレ、電信にて御回答ヲ待ツサナクテハ、便船モ無之ナルヤモ難計候、尤モ鈴木主人之話ニハ、何レ外国杯ノ商業ヲ見込ミ居人ナレハ、是非各国ヨリ貨物入集スル東京杯ニ暫クナリトモ滞在セハ、大層后日商業之参考ニ成ル事等多ク有之ならん、乍併居之如キ費用ヲ措ム人ハ、先ツ兄栄吉氏

之知人ニ頼ミ込ミ、其知人ノ商店ニ暫時厄介ニ相成居り、店用ノ内自分之成シ及ブコトハ手傳致シ、隙ノ口種々ノ商品モ有之事故、節ハ商品に付テ種々参考トナル者杯モ目ニ当ルナラン、且ツハ自然商業之事モ少シ位置ハ聞覚ユナラン、右ニ付非是本年帰邦致し、見物旁々出京スベシトノ仰ニ御坐候、当地滞在之大工帰函致サスルニ付テモ、其后出地ヨリ函館へ向ケ出帆スル船モ無之、皆々其后之積取船ハ、最初当地ニ寄港シ税金ヲ上納シ、漁場ニ於テ荷物積取之上ハ、漁場ヨリ日本へ直航之事故、誠ニ如何セント困り居申候、併シ止ムヲ不得場合ニ於テハ、今般ワール行之手船ニ乗込マスヨリ外ニ手段ハ無之候、在七尾病人事日頃如何ナル御容体ニ御坐候哉、非是承度右何分何分申上度如此ニ御坐候

九月十五日

笹野留吉

笹野栄吉様

(収納番号0255)

明治28(1895)年9月15日付けの笹野留吉からの書翰である。留吉が栄吉とどのような関係かは不明であるが、姻戚関係とは思われる。(『函館市史 通説編第3巻』412頁によると、大正期には留吉の職業は漁業で、大地主とされている)

書翰の内容から、サハリンのコルサコフに笹野商店が拠点を置こうとしていることが伺われる。その担当を留吉が担っているように思われる。また、資料5にも出てきた鈴木陽之助がコルサコフでの窓口を担っていることが分かる。

資料13

拝呈仕候、陳者錦地極暑ノ時候ニ候處、尊宅御一同様ニハ暑サノ御障害モナク御由候ニテ御消光遊バサレ候段奉大賀此ノ事ト候、降テ当方一同ニモ無事ニテ候間、

乍他事御安意被下度候、偕テ本便ニテ別紙ノ通り御依頼申上候間、御面倒ニハ候ハンガ御買入ノ上、便次第御送りノ程願上候、弊店ニハ今日マテノ売上金壱百五十ルーブル計有之候得共、右ハ浦潮ヨリ日用品ヲ買ヒ入ル心組ニ候間、西村様方ニ有ル店ノ残り金ヨリシテ右品物代ヲ御払被下度候、若シ亦タ無出候時ニハ次便ニテ御送候申ベク候間、一時何卒御立替被下度、右ノ段偏へ御願申上候
一、去ル十七日付ニテ富吉君ヨリ御尊信御書之被下、其ノ文ニ依レバセラロコ并ニ其他ニテ合計七百五十石余収獲セリトノコトニ候、当湾内其後ノ鯨漁ハ皆無ニシテ目今鱒漁ノ支度ニ取り掛り居候
一、西富内ニテ中後鯨ノ景況ハ末タ判然セサレトモ、初走ニテ各四百石程収獲セリト先ハ当用ノミ余ハ後便ニテ御報知申上ベク候

敬具

廿九年六月廿四日

組合商店 印

笹野御商店 御中

(収納番号0259)

封筒の裏書きには「在露カルサコーフ港組合商店」とあり、サハリンのコルサコフにある商店であることが分かる。文中後半に出てくる「富吉君」は栄吉の17才年下の弟である。この当時20才位であるが、漁業に従事し漁獲高などを報告するような役割を果たしていることが分かる。他の資料から、13才年下の文作という弟も船に乗って、商品などを売買しているようである。

文作は、大正5（1916）年の『北海道在住加越能人名録』では、明治34（1901）年に渡道し小樽に在住し製糸業を営んでいることになっている。

北陸出身で恐らく北前的経営をおこなっていた笹野一族が、北海道に進出し廻船業から漁場経営を経て、多角的経営をおこな

っている様子が伺える。

・函館商人とのつながり

前述したが、笹野栄吉は函館においていろいろな役職に就いている。その中から函館汽船株式会社に関する資料を取り上げ、他の函館商人との関わりを紹介する。

資料14

拝啓、先刻鳥渡御使書差上候處、御差合之為め御臨席相成難旨御回答被下候得共、実ハ別段之客来にも無之、只広谷、酒谷両氏而已にて御兩人共御来席相成筈ニ御座候間何卒万障御繰合被下、是非是非御臨席被成下度、右貴意を得度候 勿々頓首

九月六日

田中正右衛門

笹野様

肅啓、朝暮秋冷相催し候候、尊基金御勇猛慶賀此事ニ御座候偕而年来非常之御高庇と引立を蒙り奉鳴謝候、右聊か御札を兼且つ相御懇情相温め申度、粗酒一盞献酬仕度候間時分柄御迷惑ニ可被為在候得共、何卒今六日午後二時蓬萊町中島楼江御枉駕被成下度此段御案内申上候 敬具

九月六日

田中正右衛門

笹野栄吉様

(収納番号0493)

資料15

拝啓 先刻忠谷様御尊来被下、酒谷小三郎様北海道丸低當之儀一昨日御断ニ相成候得共、又低當ニ致置度旨被申候由ニ付、如何仕候テ可然哉此段御伺申上候、若シ低當口致候儀ナレバ、早速其手續キヲ致サズハナラヌト愚考仕候間、此段御伺い奉申上候、以上

十二月十七日

田中

笹野様

(収納番号0511)

作成年代不明の田中正右衛門からの書翰である。函館汽船に田中が社長として就任するのが明治26（1893）年で、資料15に出てくる「忠谷様」は明治30（1899）年に死去する忠谷久蔵と思われるので、その時期と思われる。

資料14は宴会の案内に添えて笹野に出席を促す書翰を出したものである。資料15は函館汽船所有の北海道丸の抵当に関する相談についてである。

田中正右衛門は第百十三国立銀行の頭取などを歴任した函館でも有力な商人である。資料14・15に出てくる「酒谷小三郎」は、加賀橋立出身の北前系商人である。（ここに出てくる酒谷小三郎は明治40（1907）年に死去する四代目である。詳細については、保科智治「館蔵史料にみる函館商人の様相」『市立函館博物館研究紀要』第28号 2017、忠谷や函館汽船に関しては、山口精次「橋立出身 忠谷・田端家の函館に於ける商業活動」『市立函館博物館研究紀要』第20号 2009 参照）

資料16

新年慶賀仕候、倅幣造船所義先年焼失後再興ヨリ未タ日浅ク、諸事不整頓ニ候得共、營業上ニ於テハ各位ノ御愛顧日ニ増繁多ニ趣候段深謝之至ニ候、尚ホ将来斯業ノ規模ヲ廣メ、海運事業ノ盛大ヲ謀リ候義ニ付、諸君ノ御教示ヲ仰キ度、且我遠征軍ノ連戦連捷ヲ祝スベキ好期ト共ニ、從來愛顧ノ御芳意ヲ拝謁ノ為ニ、来ル八日午後三時蓬萊町小林亭ニ於テ、亀酒一献呈シ度候間、何卒御繰合御来車被成下度奉待上候 敬具

函館造船所

一月五日 平田文右衛門
山尾福三

笹野栄吉殿

再伸 御臨席之御都合御手数ナカラ、

別紙郵便端書ニテ御通知願上候

（収納番号0428）

函館どつくの前身でもある函館造船所役員も笹野は勤めており、函館の四天王の一人といわれた平田文右衛門らとも繋がりがあったものと思われる。

北陸の北前系商人が函館に拠点をおき、函館および他地域から函館に拠点をおいた商人達と結びついていった様子が、笹野の動きからも見えてくる。

・書翰が伝える災害

近年頻発する自然災害に関して、過去の災害について知る手がかりとして古文書が活用されることがある。

「笹野家関係文書」の中から、自然災害に関する資料を紹介する。

資料17

謹啓、別封式通り昨日配達ニ相成御間致仕候条御落掌被成下度候、一昨日西村利光氏ヨリ金百参拾五円入金ニ相成、本日朝鍛冶常吉氏へ貸金内五拾円入金、夫々記入致候間、左様御承了被成下度候

一 木下妻君ハ昨朝流産致し、二子ニ二人共女子ノ由御座候、産後ノ容体ハ病軽く相成食物等も進ミ、此様子ナレハ不遠全癒スル者ト被存此旨ニ喜入候

一 兼テ新聞紙ニ御了知之事ト被存候へ共、岩手、宮城青森之三県ニハ未曾有ノ大海嘯、人家ノ損害幾数万々死亡者数四五万人悲境ノ難ニ罹り驚入候な辺ニ於テも是カ義捐ヲ募リ居候

一 西村様ノ二見丸ニ積来リ之粕ハ壺千百三拾円ニ手合売買相成候旨昨日同氏ヨリ聞及候、此旨為参考カ添候

一 マルゴ源ヨリ（同未五捨俵渡し存）米請求仕ラズ、其促致置候欵同氏へ聞合セノ上他へ売渡可然哉
右夫々報告迄申上度候

第六月廿四日 笹野支店 出口
御主人殿

(収納番号0258)

資料18

拝啓仕候、其後ハ久々御相有御伺不申上
眞実御仁免可被成下候

時下迎暑之時節ニ御座候所、まつ以其御
地御尊店衆中様方被為揃大慶之至リニ奉
賀上候、次ニ下拙も兼テ御尊顔之際、一
寸御咄し申上置候通り昨冬中より当県方
江入込テ杉立木及栗枕木等買入置候、加
テ貴地より帰塩之市直テ山元江出張之上
是非一ト先取行テ之上去ル六月中ニ帰函
之上小樽地方江出張も仕度候考之所当山
方も一時ニ伐採も出来不申、且つ亦不殘
一時ニ買人も無之、殊ニ金主但合之もの
もあら方山元取行まき不申上者其俣ニ拙
者を相放し不申不得止を本年度カラ余リ
ノ粕及其外之海産物も高直模様ニ付一時
木材ト決心之上去ル四月中より北岩手郡
沼宮内村江出張之上、時々山中を不相変
奔走罷在候、然ルニ過般来当県ハ海岸及
青森県及宮城県ハ海岸之海嘯者非常之災
害、兼テ御尊兄様ニも新聞紙上ニテ御承
知様之通り、且亦災害之地有様者筆紙ニ
難尽し次第ニ御座候、其後東京及各地ニ
至て迄も木材殊之外総テ心配よろしく本
日ニテ其素人之材木やも先以勝利の方ト
時下金主より之文通ニ御座候間御内定迄
ニ奉申上置候也

一 御手船達も御都合克漁場江御着船之
御事、殊ニ本年度ハ御尊公様ニ者壺式分
之御年柄ニも御座候間、産地之大漁不漁
ニ不抱必ス第一抜漁可被遊之事ト乍蔭夫
而已 祈寿罷在候也

一 拙者も是非秋口之頃迄ニ者~~方~~山方
取行付ケ之上帰函仕度ト夫而已心掛ケ罷
在候也

一 御尊兄様之御事ハ決テ一刻も忘却者

不仕、時々山中ニ居ながらモ御伺すぐ書
状申上度ト者愚考罷在候得共何分ニも御
承知様之通り素人之山師ニ御座候間、い
づれも余人江記セ難置く人夫ト共ニ山入
致し居終ニ寸暇も無之く草鞋之俣ニ御座
候間乍寿御無音之段者平ニ御仁免被遊置
可被下候也

一 当県海岸も海嘯後ハ更ニ何魚も漁事
無之為沼宮内辺在方及当辺之店迄も古鱒
及身欠鯡等より食料、魚更ニ無之寿外之
高直ニ御座候、定テ御手船達貴地江入船
之頃者必ス飛直も可有之ト愚考罷在候

一 兼テ御尊顔之際申上候通り小樽之商
人ニも昨秋口之塩鱒よりシテいづれも勝
利致居候間御手船達之内而船之御都合ニ
テ壺艘位ト小樽江入港必ス御勝利之御事
ト小予ハ愚考罷在候、よろしく御愚考御
掛ケ引之程を祈念罷在候也

先者右御見舞迄申上度余者沼宮内村江帰
宿之上ニテ可申上候、恐々頓首

第七月十五日

青島権三郎 印 拝

笹野御尊老台様 尊下

(収納番号0269)

資料17・18ともに明治29（1896）年の
書翰である。この2点では、明治29年6月
15日に発生した明治三陸地震によって発生
した津波（この頃はまだ「海嘯」と表現し
ている）のことが伝えられている。

資料17は発生から9日後に書かれた書翰
で、「一 兼テ新聞紙ニ御了知之事ト被存
候へ共、岩手、宮城青森之三県ニハ未曾有
ノ大海嘯、人家ノ損害幾数万死亡者数四
五万人悲境ノ難ニ罹り驚入候な辺ニ於テも
是カ義捐ヲ募リ居候」とあり、甚大な被害
状況が伝えられている。

資料18は発生から1カ月後に書かれた書
翰で、「過般来当県ハ海岸及青森県及宮城
県ハ海岸之海嘯者非常之災害、兼テ御尊兄

様ニも新聞紙上ニテ御承知様之通り、且亦災害之地有様者筆紙ニ難尽し次第ニ御座候」と、資料17同様に被害の大きさを伝えている。また、「当県海岸も海嘯後ハ更ニ何魚も漁事無之」とあり、魚が捕れない状況も伝えている。

資料19

再啓 兼而御承知ニも候わんが彼乃昨冬来之地震、当辺地ハ余程鳴動仕候由皆々より承り驚入候、そして熟々諸場ヲ熟視するに、当處前元倉庫下石垣ハ大辺形ヲ損シ、行道方ハ石と石と間ヲ距てたるコト些少不成、而して今に爰之驚冬一番之震動有之候、最モ私帰宅後数なれが四五回経ルト雖トモ、土地人民強震ニ慣れ一寸も意とセ須、左ハ老母より申上呉候様依頼ニ相成候、御帰国延引妾之留守居之事一向御氣差無偕て誠ニ申兼候へ共、御荷物之御障も御座候ハ、フクリン製之帶ニても又羽織ニても五六枚御買御送被下間布哉、此段偏ニ希上候 かしこ

玉章恭拝誦 兼々承り居候函館汽船會社汽船衝突事種ニ御尽力之功ヲ奏シ、態々好結果ヲ被得候段喜躍に不堪候、偕而過刻来申上へく筈之處不注意至極、只今御申越之実不納代料之義、木下弥三右衛門殿在宅之際、既ニ該人ヨリ被誹主天津方へ幸便ヲ以而差送申候間左様御省神被下度、右木下殿事も前々申上置候通り、函館丸之偽廣告之為メ存外出立遅延ニ相成待兼、去ル拾七日陸行ニて出發被成候、而シて其後間も無昨宵様々該船入港ニ相成聴て、本日午后当地出帆ニ相成、函館行等之御方口皆乗船ニ相成候、其内長野兄種吉様及び御妻君も同行被成候、右報道迄如此候也、将又過船来より尊兄宛之手紙数通当着致居候へ共、実ハ既ニ発京にも候はん、加乃愚案ニて差上不申義に

付今度は取不敢差送申候、最も封シ俣送付仕ヘク筈ニ候へ共、郵税甚タ相喜シ申ヘクニ付失敬なから開封一處ニ取纏メ御送申候間左様悪からず御承引被下度候、右申上度如此、余ハ面後ニ譲り申走毫腐候也

三月廿二日

笹野留吉

笹野栄吉様
御内様

(収納番号0180)

明治26(1893)年3月22日に笹野留吉から栄吉と妻に宛てた書翰である。留吉は前出の書翰ではサハリンのコルサコフから書翰を出していた人物である。この時は西海村から書翰を出している。

この書翰の中に明治25(1892)年12月9・11日に能登地方で発生した地震のことが書かれている。発生から3カ月経っているが、まだ余震が続いているようである。地震の他にも大風などの自然災害についても書かれている書翰もある。

資料20

拝啓、陳者本日電報にて貴地弁天町出火にて凡四千焼失致候との報接し、小生も実ニ驚き申候、貴家様如何相成候哉誠ニ案事居候定し貴家も焼失の難をまぬがれと愚考し樺太行帰函致居候哉若帰函無之バ如何なる御苦難と御察し、実ニ案事居候、~~御~~御家内中様にも別条御障も無之候哉、是亦案事居候、先ハ取あへず御見舞迄、余ハニ申上候也

八月廿六日 中柳庄松

笹野栄吉様

(収納番号0117)

資料7でも述べたが、明治29(1896)年8月26日に弁天町を中心に大火があった。

この書翰はそのお見舞いである。発生日に電報を受けてその日のうちに送られたようである。「凡四千焼失致候との報」という知らせをその日のうちに受けたようで、災害状況がいち早く伝わっていることが伺われる。この火事に関するお見舞いは当該資料の中に多数残されている。

以上、「笹野家関係文書」の中から笹野の商活動に関すること、商活動に伴う人脈関係に関すること、災害に関することなどの資料を紹介してきた。これまでも函館商人に関する資料を紹介してきた。それらの商人とも関連した部分が当該資料にも見ることができた。当該資料を含めて、これまで整理し紹介してきた資料が、函館商人の実像を明らかにしていく基礎資料となれば幸いである。

(市立函館博物館学芸員)

*「笹野家関係文書」の整理に携わった方々
浅沼元子氏・駒井麗子氏・柴田等氏・
安田繁子氏・山口精次氏・吉田忠博氏

*本稿を執筆するにあたり、山口精次氏・大矢京右氏から種々ご教示をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

(追記)

出稿後、ロシア極東連邦総合大学函館校教授倉田有佳氏より「鈴木於兎平」に関する資料をご提供いただき、新たに分かったことを追記するとともに、倉田氏にお礼を申し上げます。

『水産界』408(1916)に於兎平が「露領漁業の今昔」という文章を寄稿している。

その中に、「再び黒龍江漁業の有望なるを考へ、極力其实行を切望して居つた時、二十二年故人久世領事及当時の領事館書記生鈴木陽之助氏等の斡旋により、函館の笹野栄吉氏と懇意なり」という一文があり、これにより資料5に出てくる「鈴木陽氏」(鈴木陽之助)と、鈴木於兎平と笹野栄吉の関係が明らかとなった。さらに「第一次西伯利亚総督陸軍大将コルフ男爵と同船した、船中に於て総督に面し、我輩の黒龍江に向ふ目的を話し、(中略)将来黒龍江に於て漁業を経営せんと欲す、若し其際には是非許可せられんことを述べた。」とあり、資料9には「待チニ待チタル浦塩知事ノ指令書」とあり、於兎平が黒龍江周辺での漁業活動に強い意欲を示していたことが分かる(資料9について明治26年と思われるとしたが、明治25年と改める)。また、漁業を始めるにあたり「コルフ男爵」の許可を得ようとしており、後にその許可を得て、明治25年から笹野とともに操業を開始した旨も書かれている。資料6にある「大隊長注文品」と「コルフ男爵」の関係は不明であるが、露領漁業初期における日本とロシアの人的関係がうかがい知れる。

於兎平は、『大日本水産会報』126(1892)に「露領黒龍江ニ於ケル漁業意見」という文章を寄稿し、その有益性を述べている。この文章の中にも前述の「コルフ男爵」なる人物が「コルフ将軍」として記載されている。ちなみにこの報告については、資料2の書翰のなかで述べられている。

今回提供していただいた資料により、「笹野家関係文書」内の鈴木於兎平の書翰類の内容がより明確になった。さらに従来あまり知られていなかった、露領漁業における鈴木於兎平の役割が多少明らかになったと思われる。

資料リスト

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形態	数量	書下
0001	ハガキ（病気見舞）	東京市本郷区元町二丁目四十七番地 渡辺清次郎→北海道函館港旅籠町四十番地 笹野支店	明治12年12月9日	状	1	
0002	ハガキ（火事見舞）	石川県能登国羽咋郡西海村字風無→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治19年9月5日	状	1	209
0003	書翰（電報訂正通知書）	函館郵便電信局→ハタゴマチ笹野支店	明治20年12月28日	状	1	
0004	状（物品価格表）	新潟港 白井勝太郎	明治22年11月1日	状	1	
0005	ハガキ（事務移転案内）	函館魚菜会社事務所→旅籠町 笹野栄吉	明治22年11月19日	状	1	
0006	ハガキ（本社株式総会開催案内）	函館富岡町五番地 函館魚菜会社事務所→旅籠町 笹野栄吉	明治22年11月24日	状	1	
0007	ハガキ（総会延期案内）	函館魚菜会社事務所→旅籠町 笹野栄吉	明治22年12月1日	状	1	
0008	ハガキ（病状報告）	東京市本郷元町二丁目四十七番地 渡辺清次郎→北海道庁渡島国函館区旅籠町四十番地 笹野支店	明治22年12月18日	状	1	25
0009	ハガキ（株主第壹期拂込期限案内）	函館富岡町五番地 函館魚菜会社創立事務所→旅籠町 笹野栄吉	明治22年12月19日	状	1	
0010	ハガキ（年賀状）	東京神田駿河臺袋町 井田宗平方八谷常次郎→北海道函館港ハタゴ町四十番地方 笹野文作	明治23年1月1日	状	1	
0011	書翰（病気見舞）	石川県能登国羽咋郡西海村字風無中棚庄松→北海道渡島国函館区旅籠町40番地 笹野文七	明治23年12月15日	状	1	178
0012	書翰（病気見舞）	石川県能登国羽咋郡西海村字千ノ浦 高橋弥十郎→北海道渡島国函館区旅籠町40番地 笹野文七	明治23年12月15日	状	1	179
0013	書翰（積荷売捌状況及び千吉丸運行予定）	陸前国宮城郡塩竈 太田與八郎方 笹野栄吉→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野文七	明治23年12月20日	状	1	318
0014	書翰（積荷売捌状況及び千吉丸の運行予定）	陸前国宮城郡塩竈 白石支店ニテ 笹野栄吉→函館区旅籠町四十番地 笹野文七	明治23年12月29日	状	1	319
0015	書翰（積荷売捌状況報告）	越後直江津砂山町 古川長四郎方 笹野栄吉→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野文七	明治24年1月15日	状	1	320
0016	書翰（船舶状況報告）	下北郡脇沢村 川岸利三郎方ニテ 木下弥三右門→北海道函館旅籠町40番地 笹野支店	明治24年12月23日	状	1	331
0256	ハガキ（挨拶）	陸前塩竈北海岸同停車場前 太田支店 太田與八郎→函館旅籠町 笹野栄吉	明治25年1月1日	状	1	
0017	電報（キンウケトルフミテタ）	ヨツヤ フヲバンマチ クセ→コイシジロスケ カタ ササノ	明治25年4月2日	状	1	
0018	電報（ミタニ〇〇エンタシタ）	ハコダテ ハタコマチ ササヤ（ノ）シテン→ヨイシジロスケ方 サキ（サ）ノエイキチ	明治25年4月19日	状	1	
0019	ハガキ（通知）	石川県羽咋郡西海村字風無 花野市郎→福井県越前敦賀大和田店七〇御止宿 笹野栄吉	明治25年4月24日	状	1	100
0020	書翰（留守宅の近況報告）	能登国羽咋郡西海村 笹野家内より→福井県越前國坂井港新町 小石治郎助様方ニテ 笹野栄吉	明治25年4月30日	状	1	346
0021	ハガキ（品物値段通知）	秋田土崎港小口町 安田常吉→函館旅籠町 笹野文七	明治25年5月10日	状	1	
0022	ハガキ（礼状）	福山涌川町 内山拝→函館ハタゴ町40番地 サジルシ 笹野栄吉	明治25年5月11日	状	1	324
0023	ハガキ（送金の件）	阪井港之田町 茶本善七→北海道函館港旅人町 笹野栄吉	明治25年5月18日	状	1	332

収納 番号	資料名 (内容)	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0024	電報 (ヒトヤマデタ)	トラムキ丁 キダサンヘモン→ハ コダテ四〇パンチ ササノエイキ チ	明治25年 5 月22日	状	1	
0025	電報 (ミタノコリ七〇タケ アル アトヤメタシクエ ク)	フクヤマ キダサンヘモン→ハコ ダテマチ 四十パンチ ササノエ イキ	明治25年 5 月24日	状	1	
0026	書翰 (英語・簿記の学習に ついて)	石川県羽咋郡西海村字風無一番地 笹野留吉→北海道函館四十番地 笹野栄吉	明治25年 5 月24日	状	1	327
0027	電報 (ヒトイマデタ)	フクヤマ キダサンヘモン→ハタ ゴマチ四十パンチ ササノエイキ チ	明治25年 5 月26日	状	1	
0028	書翰 (電信架設に関する寄 附依頼)	能登富来郵便 葛城忠〇計→函館 旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治25年 6 月 3 日	状	1	
0029	電報 (ワカデタツタ)	カイカン五丁メ ホウライヤヨサ 〇 ススキヲト〇→ハタコ丁四十	明治25年 6 月 3 日	状	1	
0030	ハガキ (値段表)	秋田 安田常次郎→函館旅籠町 笹野文七	明治25年 6 月 4 日	状	1	
0031	ハガキ (値段表)	兵庫宮内町 藤商会→渡島国旅籠 町 笹野栄吉	明治25年 6 月 5 日	状	1	
0032	電報 (一二〇ウケトツタ)	ロシアコウシカン ススキ オト ヘイ→ハタコ丁四〇ハンチ ササ ノエイキチ	明治25年 6 月 9 日	状	1	
0033	電報 (カラフトサケ 二四 五テトリデキタ)	ツナサキ ヤスダツ子キチ→ハタ コマチ ア (サ) サノブンシチ	明治25年 8 月14日	状	1	
0034	電報 (ゲンムマスシヘトロ メ三二子二三ツキ二五 ミ ホンツケル ベニマス七三 デキタ)	ホクカイドウ セウカイ→ハコダ テ ササノエイキチ	明治25年 8 月27日	状	1	
0035	電報 (ゲンムマスジョ ニ ツギ二三ハン タカ子デ キタ)	ホクカイドウ セウカイ→ハタコ マチ ササノエイキチ	明治25年 8 月28日	状	1	
0036	電報 (セツハヤー八ミコ ミ)	ミクニ イシジロスケ→ハタゴ丁 ササノエイキチ	明治25年 9 月 2 日	状	1	
0037	電報 (カラフトイマデ子五 五)	ナヲエツ フルカワテウ シロウ →ササノシテン	明治25年 9 月 2 日	状	1	
0038	電報 (カラフトイマ三〇ツ キ ナカヨリタカミコミ)	モト ヨツカイチ丁八ハンチ ホ クカイドウ セウカイ→ハタゴ丁 ササノシテン	明治25年 9 月 2 日	状	1	
0039	電報 (テ子三〇カラマス五 六)	ナヲエツ フルカワテウジロ→ハ タゴ丁 ササノエイキチ	明治25年 9 月 8 日	状	1	
0040	電報 (エトマスメ三二子一 八 デキタシラス)	ホクカイトウ セウカイ→ハタゴ 丁 ササノエイキチ	明治25年 9 月 8 日	状	1	
0041	電報 (ニモツキタ子アトヨ リ)	ナヲエツ フルカワテウ四ロウ→ ハタゴ丁 ササノシテン	明治25年 9 月17日	状	1	
0042	電報 (〇〇ウンキウケイタ ミキ タ子シンハイシテ ル)	ナヲエツ フルカワテウシロウ→ ハタゴ丁 ササノイエキチ	明治25年 9 月18日	状	1	
0043	電報 (トリツメサケテ子三 五 イキヤイマス七八五 へ)	ナヲヘツ フルカワテウシロウ→ ハタゴ丁 ササノイエキチ	明治25年 9 月19日	状	1	
0044	電報 (トリツメマステ子八 二 サケ三六イカカスル へ)	ナヲヘツ フルカワテウシロウ→ ハタコ丁 ササノイエキチ	明治25年 9 月19日	状	1	
0045	電報 (メ三九クライマワ ル)	フルカワ チョウシロ→ハタゴ丁 ササノエイキチ	明治25年 9 月20日	状	1	
0046	電報 (サケメ三七ヨリマ〇 タ ストリツメ七五ウル カ)	ホツカイドウ セウカイ→ハタゴ 丁 ササノエイキチ	明治25年 9 月20日	状	1	
0047	電報 (サケマワラスセセ 七三ウツタ マスメタシカ ナラ二八 ウレルツメへ)	ヨツカイチ丁 ホクカイトウ セ ウカイ→ハタコ丁 ササノエイキ チ	明治25年 9 月21日	状	1	
0048	電報 (ミタソノ子デキナイ シンバイシテイル)	フルカワ ヨシロウ→ハタゴ丁 ササノエイキチ	明治25年 9 月23日	状	1	

収納 番号	資料名 (内容)	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書 下
0049	電報 (サケテ子三三五マデ トリツメタイカカヘン)	ナヲエツ フルカワテウシロウ →ハタコ丁 ササノエイキチ	明治25年9月23日	状	1	
0050	電報 (マスホマイ五ソウニ ウ センシタ)	元四日市 ホクカイトウ セウカ イ→ハタコ丁 ササノエイキチ	明治25年9月25日	状	1	
0051	電報 (サケハンスカンカン ノ シキテ三ーハイカカ ヘ)	ナヲエツ フルカワテウシロウ →ハタゴ丁四〇パンチ ササ (ノ) エイキチ	明治25年9月26日	状	1	
0052	電報 (マスキハイサケヘ ン)	ナホヘツ フルカワテウシロ→ハ タコ丁 ササノエイキチ	明治25年9月27日	状	1	
0053	電報 (カズハンスイレメー ヒヤクメテ子三ールヘ)	フルカワ チョウシロウ→ハタコ 丁四〇ハンチ ササノエイキチ	明治25年9月27日	状	1	
0054	電報 (子三二カス三三〇ウ タ)	ナヲヘツ フルカワテウシロ→ハ タコマチ ササノエイキチ	明治25年9月28日	状	1	
0055	電報 (ヨキカラマストリツ メ タテ子五七イクラコク ウリキメスルスクヘン)	〔ナヲエツ〕 ハコタテ局→ハコ タテハタコ丁 ササノエイキチ	明治25年10月1日	状	1	
0056	電報 (ヨキカウケストリツ メ タテ子五七イクラコク ウ リキメスルスクヘン)	ナヲエツ フルカワテウシロ→ハ タコ丁 ササノエイキチ	明治25年10月1日	状	1	
0057	電報 (アゲヲキマストリツ メテトリ子六八ヘン)	ナホヘツ フルカワテウシロウ→ ハタゴマチ ササノエイキチ	明治25年10月3日	状	1	
0058	電報 (サケセン子ウルマス ヲ クリタノムケサノヘ ン)	ナホヘツ フルカワテウシロ→ハ タゴマチ ササノエイキチ	明治25年10月3日	状	1	
0059	電報 (トリツメタ子カワン シ ナアシイミキリイカ カ)	ナヲエツ フルカワテウシロウ→ ハタゴ丁 ササノエイキチ	明治25年10月4日	状	1	
0060	電報 (サケセン子ウタマス ヘ)	ナヲヘツマチ フルカワテウ四ロ ウ→ハタゴマチ ササノエイキチ	明治25年10月6日	状	1	
0061	電報 (ジヨ二〇五テケタ)	ツルガ ヲヲワタシヨシチ→ハタ ゴ丁 ササノエイキチ	明治25年10月6日	状	1	
0062	電報 (二六タシカウレルツ メ)	トウケイ モトヨツカイチ ホツ カイドウ セウカイ→ハタゴ丁 ササノエイキチ	明治25年10月6日	状	1	
0063	電報 (ミタ子四六ウレル)	ヒヨコ ワジシヨウカイ→ハタコ 丁 ササノエイキチ	明治25年10月7日	状	1	
0064	電報 (カラフトマス二〇〇 コ ク子二五デキタ)	ホクカイトウ セウカイ→ハタコ 丁 ササノエイキチ	明治25年10月7日	状	1	
0065	電報 (ニシヘツメ九〇子三 シ クナシリメ八五子三七 デキタシラス)	ホクカイトウ セウカイ→ハタゴ 丁 ササノエイキチ	明治25年10月8日	状	1	
0066	電報 (カラフトー九〇テキ タ エドー七リシリ四八)	ツルガ ヲヲワタシヨシチ→ハタ ゴマチ ササノエイキチ	明治25年10月9日	状	1	
0067	電報 (サケセン子ヨリーワ リ ヤスシシラス)	モト四日市マチ ホクカイトウ セウカイ→ハタコ丁 ササノエイ キチ	明治25年10月10日	状	1	
0068	電報 (マス六〇サケ三四テ シンハク六七ノリ)	ニイカタ シマアサタロ→ハタコ 丁 ササノエイキチ	明治25年10月11日	状	1	
0069	電報 (イマニキワルイー ホ ンヤスツミスコシマ (テ))	ホクカイトウ商会→ササノエイキ チ	明治25年10月11日	状	1	
0070	電報 (マスナヲツメタ子ウ レ ンテ六八ミキリイカ カ)	ナヲエツ丁 フルカワテウ四ロウ →ハタコ丁 ササノエイキチ	明治25年10月12日	状	1	
0071	電報 (三四ホンシナフツ ク)	シホカママチ シライシテン→ヒ カシハマ丁 ササノエイキチ	明治25年10月12日	状	1	
0072	電報 (シベツ四三クナシリ 四五デキタ)	ホクカイ トウセウカイ→ハタコ 丁 ササノエイキチ	明治25年10月14日	状	1	
0073	電報 (テ子六六ハカライウ タ)	ナヲエツ丁 フルカワテウシロウ →ハタゴ丁 ササノエイキチ	明治25年10月18日	状	1	

収納 番号	資料名 (内容)	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書 下
0074	電報 (ヲ克蘭キケンムツ ミ シヘツツケクチ五六ヨ リ五八シラス)	モトヨツカイチ ホクカイトウ セウカイ→ハタコ丁 ササノエイ キチ	明治25年10月19日	状	1	
0075	電報 (ジヨトカラマス四ヒ ヤクコクテ子五八五ウ リ キメスルカスクヘン)	ナヲエツ フルカワテウシロ→	明治25年10月19日	状	1	
0076	電報 (カラフトイマー八 五)	ツルガ ヲウワタセウシチ→	明治25年10月20日	状	1	
0077	電報 (カワセウケルヲク レ)	シホカマ シライセウテン→ハタ コマチ ササノエイキチ	明治25年10月20日	状	1	
0078	電報 (テンミタ五七テト リ)	サカタ ヲクムラシチサフロ→ハ タゴマチ四十ハンチ ササノエイ キチ	明治25年10月22日	状	1	
0079	電報 (カラマステモチアル カ)	ホクカイドウ セウカイ→ハタゴ 丁 ササノエイキチ	明治25年11月4日	状	1	
0080	電報 (マス二三ウレル二三 イ リニシテスクツメヘ ン)	モトヨツカイチ ホクカイドウ セウカイ→ハタゴ丁 ササノエイ キチ	明治25年11月4日	状	1	
0081	電報 (ミタニキタ子アスサ タ)	フジ セウカイ→ハタゴ丁 ササ キ (ノ) エイキチ	明治25年11月4日	状	1	
0082	電報 (ミツアケイマタウレ ヌ)	シライシ セウテン→ハタコ丁 ササノエイキチ	明治25年11月5日	状	1	
0083	電報 (マス子四三カウヘ ン)	ヒヨコ ミヤウチマチ九ハンチ フジシヨウカイ→ハタゴ丁 ササ ノエイキチ	明治25年11月5日	状	1	
0084	電報 (サシ子ウレン四四ヘ ン)	ヒヨコ フシシヨウカイ→ハタゴ マチ ササノエイキチ	明治25年11月6日	状	1	
0085	電報 (マスーコ子一〇五ヘ ン)	シホカマ ミナト シライシ セ ウテン→ハタゴ丁 ササノエイキ チ	明治25年11月8日	状	1	
0086	電報 (一一ウレヌマカスカ ヘン)	シホカマ丁 シライシ セウテン →ハタコ丁 ササノエイキチ	明治25年11月8日	状	1	
0087	電報 (マス三四五ウツタ)	ミヤウチ丁九ハンチ フジシヨ ウカイ→ササノエイキチ	明治25年11月9日	状	1	
0088	電報 (フミミタマスヤスク ハ ウラヌミホンツメヘ ン)	モトヨツカイチ丁 ホクカイトウ セウカイ→ハタコ丁 ササノエイ キチ	明治25年11月12日	状	1	
0089	電報 (マスーコー二五ウル カ (ウルナフミダス) ミタヤスイウルナフミ)	フクシマ トホリ六テウメ タカ ヲカシテン→ハタゴ丁四〇ハンチ ササノエイキチ	明治25年11月17日	状	1	
0090	電報 (サシ子デヤワヌクラ イリスルカイカガヘ)	ニホンハシ ホツカイドウ セウ カイ→ハタゴマチ ササノエエチ	明治25年11月23日	状	1	
0091	電報 (マスメニ〇五マワル イ タミテル子二五ウル カ)	ホクカイトウ セウカイ→ハタゴ マチ ササノエイキチ	明治25年11月23日	状	1	
0092	電報 (マス二四トリ口メタ ヘ)	モトヨウカイチ八バンチ ホクカ イドウ セウカイ→ササノエイキ チ	明治25年11月29日	状	1	
0093	電報 (マス二三五シヨチウ タ)	ホクカイトウ セウカイ→ハタゴ マチ ササノエイキチ	明治25年11月30日	状	1	
0094	電報 (サシ子ウレン子四七 ヘ)	フシセウカイ→ハタゴマチ ササ ノエイキチ	明治25年12月1日	状	1	
0095	電報 (ミタ子四七ウツタ)	フジシヨウカイ→ハタゴマチ サ サノエイキチ	明治25年12月1日	状	1	
0096	電報 (サンマリヨイマ六リ ン アトリヨアル)	モトヨツカイチ ホクカイトウ セウカイ→ハタコ丁 ササノエイ キチ	明治25年12月2日	状	1	
0097	電報 (ニナエイサエルミヤ ル)	ワキノサワムラ カワキシリサフ ロ→ハタゴ丁四〇ハンチ ササノ エイキチ	明治25年12月11日	状	1	
0098	電報 (キハイヨイスクツ メ)	フジイ セウ会→ハタゴマチ サ サノエイキチ	明治25年12月12日	状	1	
0099	電報 (マスジヨ二五ウレ ル)	ホクカイトウ セウカイ→ハタゴ 丁 ササノエイキチ	明治25年12月13日	状	1	

収納 番号	資料名 (内容)	作成者→受取人	作成年代	形態	数量	書下
0100	電報 (ハハタマウラテノツタ)	フクヤマ ウチノ→ハコダテ ハ タゴマチ ササノ	明治25年12月13日	状	1	
0101	電報 (サケメサキフニンキシ ロケエンカン三五フナ 三八ツケクチシラスタ カ モノカウナ)	ホツカイドウ ショウカイ→ハタ コ丁 ササノエイキチ	明治25年12月14日	状	1	
0102	電報 (マスー〇ハツケ子ー ウルカスグヘン)	シホカママチ シライシ セウテ ン→ハタゴ丁 ササノエイキチ	明治25年12月15日	状	1	
0103	電報 (フリカコイジユウメ 子二七ジヨ子三六)	ヒヨゴ フジセウカイ→ハタゴ丁 ササノエイキチ	明治25年12月17日	状	1	
0104	電報 (マタキメマ イサイ フミ)	シホカマ シライシ セウテ ン→ハタコ丁 ササノエイキチ	明治25年12月17日	状	1	
0105	封筒	東京都日本橋通二丁目 蓬萊屋に て 中山信成→北海道函館船場町 函館汽船会社 田中正右衛門	明治25年12月18日	状	1	
0106	書翰 (万福寺事件大阪裁判 で敗訴の件)	石川県羽咋郡西海村字風無 坂本 市左エ門→北海道函館港旅籠町ニ テ 笹野栄吉	明治25年12月21日	状	1	334
0107	電報 (フ子ハヤクムケロ)	ワキノサワ カワキシリサブロウ →ハタコマチ四一ハンチ ササノ エイキチ	明治25年12月21日	状	1	
0108	書翰 (鱈売却の件)	岩代福島町通り六字岡内 青嶋国 造→北海道函館港旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治25年12月26日	状	1	350
0109	封筒	東京都日本橋通二丁目 蓬萊屋に て 中山信成→北海道函館船場町 函館汽船会社 田中正右衛門	明治25年12月28日	状	1	
0110	書翰 (新鱈買人について)	青森県下北郡脇野澤村 川岸利三 郎→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年1月1日	状	1	141
0111	書翰 (ロシアのセメートノ フ氏との合同漁業の営みにつ いて)	東京にしや 鈴木於兎平→函館港 旅籠町40番地 笹野栄吉	明治26年1月1日	状	1	341
0112	書翰 (新年の挨拶。大地震 見舞)	石川県金沢市上胡桃町四十九番地 小村外久男方 笹野留吉→北海道 函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治26年1月1日	状	2	103
0113	ハガキ (塩鱈の売行状況)	兵庫宮内町九番地 藤商会→函館 旅籠町 笹野栄吉	明治26年1月5日	状	1	99
0114	書翰 (①初直組について ②新年挨拶状)	東京日本橋元四日市町八番地 北 海道商会→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年1月9日	状	2	
0115	封筒	越後直江津町 古川長四郎→函館 港旅籠町 笹野栄吉	明治26年1月13日	状	1	
0116	書翰 (漁状況と漁獲物積み 出しの件)	南部鉄ヶ崎 横坂権七方ニ 千吉 丸 平野重助→函館区旅籠町40番 地 笹野栄吉	明治26年1月15日	状	1	9
0117	書翰 (委託された鮭鱈売捌 の報告)	岩城福島町字宮内 ウロコイチ青 嶋国造→北海道函館旅籠町四十番 地 笹野栄吉	明治26年1月16日	状	1	30
0118	書翰 (依頼漁獲物の売捌状 況と商況報告)	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年1月17日	状	1	202
0119	書翰 (鮭買入の件等)	茅部郡石倉村55番地 吉田三太郎 →函館区幡ゴ町40番地 笹野栄吉	明治26年1月17日	状	1	161
0120	書翰 (御手船橋舟検印願提 出の件等)	青森県下北郡脇野沢村 川岸利三 郎→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年1月18日	状	1	140
0121	書翰 (商品出荷状況等)	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年1月18日	状	1	219
0122	書翰 (千吉丸舩舟の証明書 請取りについて)	田名部村 山本埋十郎→下北郡脇 ノ沢村 川岸利三郎	明治26年1月19日	状	1	142
0123	書翰 (橋舟の処置につい て)	青森県下北郡脇野澤村 川岸利三 郎→函館旅籠町 笹野支店	明治26年1月20日	状	1	115
0124	書翰 (英国領事館事件に関 する件)	在東京 中山信成→北海道函館船 場丁 函館汽船会社ニテ 笹野栄 吉	明治26年1月20日	状	1	7

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0125	書翰（漁獲物の販売状況）	東京日本橋区四ヶ市町 北海道商 会ニテ 千吉丸 平野重助→北海 道函館区ハタゴ庁40番地 笹野栄 吉	明治26年 1 月21日	状	2	6
0126	書翰（礼状）	福山 内山元太郎拝→函館ハタゴ 町四十番地 笹野栄吉	明治26年 1 月22日	状	1	80
0127	書翰（造船所における労使 運動について）	兵庫宮内町筏マチ方ニテ 渡邊清 次郎→北海道函館旅籠町 商船学 校ノ裏 笹野栄吉	明治26年 1 月23日	状	1	11
0128	書翰（千吉丸検印届と日用 米送付の報告）	青森県下北郡脇野沢村 川岸利三 郎→函館旅籠町 笹野支店	明治26年 1 月24日	状	1	257
0129	書翰（①青嶋氏賃金の件等 ②実子縄など注文の報告 等）	函館支店→東京市京橋区平松町七 番地 森巳之助様 笹野栄吉	明治26年 2 月 2 日	状	2	271
0130	書翰（近況伺い）	函館区旅籠町 石川宇之松→東京 市京橋区松屋町一丁目八十番地 鈴木弥兵衛様方 笹野栄吉	明治26年 2 月 3 日	状	1	138
0131	書翰（新築工事落成の件）	函館浜町八番地 中山信成→東京 日本橋通 2 丁目 蓬莱家ニテ 笹 野栄吉	明治26年 2 月 3 日	状	1	137
0132	書翰（金子請取、払込等につ いて）	函館富岡町 広谷順吉→東京日本 橋区通り二丁目 蓬莱屋方 広谷 源治 笹野栄吉	明治26年 2 月 8 日	状	1	345
0133	書翰	敦賀港 大和田商店→東京日本橋 通二丁目 蓬莱屋様方 笹野栄吉	明治26年 2 月 9 日	状	2	343
0134	書翰（塩鱈の状態と販売状 況）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 東京日本橋区通り二丁目 蓬莱家 方 笹野栄吉	明治26年 2 月 9 日	状	1	186
0135	書翰（千穂国丸の件等）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 東京日本橋区通二丁目 蓬莱家方 笹野栄吉	明治26年 2 月 9 日	状	1	188
0136	書翰（鱈送付延引のお詫び 等）	岩 福島町 高岡支店→東京日本 橋区通り二丁目旅店 蓬莱家方 笹野栄吉	明治26年 2 月 9 日	状	1	272
0137	ハガキ（塩鱈のお礼と鰯代 価聞きもらしのお詫び）	麹町区中六ノ十三 鈴木米政→日 本橋通二丁目 旅人宿蓬莱屋 笹 野栄吉	明治26年 2 月 9 日	状	1	295
0138	書翰（雇入取計いの依頼）	函館港仲浜町廿二番地 ヤマス船 具売捌会社→東京日本橋区平松町 五番地 イセ屋 森巳之助様方 笹野栄吉	明治26年 2 月 9 日	状	1	280
0139	書翰（塩鱈の売買状況等）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 東京市日本橋区通り二丁目 蓬莱 家方 笹野栄吉	明治26年 2 月10日	状	1	185
0140	書翰（北門丸保険料の件）	函館汽船社会社 広谷順吉→東京 日本橋通二丁目八番地 蓬莱家方 笹野栄吉 広谷源治	明治26年 2 月11日	状	2	232
0141	書翰（北門丸保険料並に名 儀書換 北海道丸・渡島丸 消息の件）	函館富岡町 広谷順吉→東京日本 橋区通り二丁目 蓬莱屋方 笹野 栄吉	明治26年 2 月12日	状	1	239
0142	書翰（鱈売却の件等）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 東京日本橋通り二丁目 蓬莱家方 笹野栄吉	明治26年 2 月12日	状	1	187
0143	書翰（北門丸の件等）	函館富岡町 加藤藤吉→東京市京 橋区松屋町一丁目 鈴木弥兵衛様 方 笹野栄吉	明治26年 2 月12日	状	1	261
0144	書翰（北門丸保険料手形の 件）	函館汽船会社ニテ 広谷順吉→東 京日本橋通り二丁目八番地 蓬莱 屋方 笹野栄吉	明治26年 2 月14日	状	1	233
0145	書翰（鱈の状態と価格、在 庫等について）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 東京日本橋区通り二丁目 蓬莱家 方 笹野栄吉	明治26年 2 月15日	状	1	184
0146	書翰（船舶状況報告）	下田港 坂野重左衛門 千吉丸 平野重助→東京日本橋区平松町7 番地 森巳之助様方ニ 笹野栄吉	明治26年 2 月16日	状	1	136

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書 下
0147	ハガキ（芝居見学依頼）	駿河台袋町向へ □□□ 内山拝 →日本橋通り二丁目 蓬莱屋方 笹野栄吉	明治26年2月16日	状	1	289
0148	書翰（証明書留）	函館汽船会社 広谷順吉→東京日 本橋通り二丁目八番地 蓬莱家方 笹野栄吉	明治26年2月17日	状	2	226
0149	ハガキ（出京日時の問合 せ）	伊豆国君沢郡修善寺村 新井方ニ テ 橋本金太郎→東京日本橋区佐 内町 駿河屋 笹野おさだ	明治26年2月17日	状	1	98
0150	ハガキ（旅行日程の連絡）	青森 広谷源治→東京日本橋通り 二丁目 蓬莱屋方 笹野栄吉 山 木正徳	明治26年2月17日	状	1	292
0151	書翰（賃金回収の状況報告 等）	函館区旅籠町 笹野支店→東京市 日本橋通り二丁目 蓬莱屋方 笹野 栄吉	明治26年2月17日	状	1	279
0152	書翰（船舶内状況報告）	函館汽船会社 堀文治→東京日本 橋通り二丁目八番地 蓬莱屋方 笹 野栄吉	明治26年2月17日	状	1	281
0153	ハガキ（お立寄の誘い）	麻布本村町 山田昌邦→日本橋通 り二丁目 旅店 蓬莱屋方 笹野 栄吉	明治26年2月19日	状	1	303
0154	ハガキ（近況報告と在宅の 確認）	牛込大久保 川正徳→日本橋区通 り二丁目 旅人宿 蓬莱屋方 笹 野栄吉	明治26年2月19日	状	1	304
0155	ハガキ（お礼と近況報告）	□口区湯島聖堂方 広谷季太郎→ 日本橋区通り二丁目 蓬莱屋方 笹野栄吉	明治26年2月19日	状	1	299
0156	書翰（預り塩鱈の差図願と 好況物値段報告）	兵庫宮内町九番地 藤商会→東京 日本橋通り二丁目 蓬莱家方ニテ 笹野栄吉	明治26年2月19日	状	1	254
0157	ハガキ（当地出港通知）	豆州下田湊 坂野重左エ門→東京 市日本橋区通二丁目 蓬莱屋様方 笹野栄吉	明治26年2月20日	状	1	97
0158	ハガキ（出京時のお礼と出 発の報告）	伊豆国君沢郡修善寺村 新井旅舎 ニテ 橋本金太郎→東京市日本橋 区通二丁目 蓬莱屋旅館ニテ 笹 野栄吉	明治26年2月20日	状	1	286
0159	書翰（航海状況報告）	伊豆國子浦港 大伝七三郎方 千 吉丸 平野重助→東京日本橋区平 松町七番地 森巳之助様方へ 笹 野栄吉	明治26年2月21日	状	1	189
0160	書翰（北門丸の動向等につ いて）	函館 広谷順吉→東京日本橋区通 り二丁目 蓬莱屋方 笹野栄吉	明治26年2月22日	状	1	117
0161	書翰（①漁網代金の支払につ いて ②千徳国丸船長高 念甚松の動勢について）	能登國西海村 笹野本店→東京府 日本橋区平松町七番地 森巳之助 様方ニテ 笹野栄吉	明治26年2月22日	状	3	76
0162	書翰（汽船古平丸売却の 件）	函館 広谷順吉→東京日本橋区通 り二丁目 蓬莱家方 笹野栄吉	明治26年2月23日	状	1	125
0163	ハガキ（来館の件）	鈴木於兎平→京橋区通二丁目八番 地 蓬莱屋方 笹野栄吉	明治26年2月24日	状	1	285
0164	書翰（北門丸海難の経過報 告）	笹野支店方 笹野文作→東京市日 本橋区通り二丁目 蓬莱亭方 笹 野栄吉	明治26年2月25日	状	1	249
0165	ハガキ（来館不可の返信）	ロシア公使館 鈴木於兎平→日本 橋区通二丁目八番地 蓬莱屋方 笹野栄吉	明治26年2月25日	状	1	284
0166	書翰（航海予定の件等）	兵庫宮内町筏マチ宅 中越丸 渡 辺清次郎→東京市日本橋通一丁目 二部小路 旅人宿 蓬莱屋方ニテ 笹野栄吉	明治26年2月26日	状	1	44
0167	ハガキ（元石川県選出衆議 院議員橋本次六氏の居宅の 件）	本店ヨリ 橋本金太郎→東京日本 橋区通二丁目 蓬莱屋旅舎ニテ 笹野栄吉	明治26年3月2日	状	1	302

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書 下
0168	封筒	函館弁天町三十九番地 相馬哲平 →東京日本橋区通二丁目八番地 蓬莱家旅舎ニ而 笹野栄吉	明治26年3月2日	状	1	
0169	書翰（汽船北門丸の件等）	函館区大町34番地 青島権三郎→ 東京市日本橋区二丁目 蓬莱屋方 御止宿 笹野栄吉	明治26年3月2日	状	1	139
0181	書翰（塩鱈売却の件等）	兵庫東出町伊勢七平方 千吉丸 平野重助→石川県能登国羽喰郡西 海村字風無 笹野栄吉	明治26年3月30日	状	1	14
0170	書翰（貸金、漁夫積取り、 汽船売却の件等）	函館 広谷順吉→東京日本橋区通 り二丁目 蓬莱屋方 笹野栄吉	明治26年3月4日	状	1	237
0171	書翰（塩鱈の販売状況）	橋本金太郎→笹野栄吉 御内室	明治26年3月9日	状	1	10
0172	書翰（鱈、塩鮭の商況報 告）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 東京日本橋区通二丁目 蓬莱家方 笹野栄吉	明治26年3月11日	状	1	177
0173	書翰（状況報告）	千吉丸 平野重助→御主人	明治26年3月11日	状	1	12
0174	ハガキ（訪問通知）	牛込大久保余丁町 川口正徳→日 本橋区通り二丁目 旅人宿 蓬莱 屋方 笹野栄吉	明治26年3月13日	状	1	
0175	書翰（会社の近況報告）	函館汽船会社 堀文治→東京日本 橋通二丁目八番地 蓬莱家方ニテ 笹野栄吉	明治26年3月15日	状	1	65
0176	書翰（依頼状）	松村商店→東京日本橋区通二丁目 蓬莱家方 笹野栄吉	明治26年3月19日	状	1	214
0177	書翰（北門丸積荷、蔵入の 件等）	函館支店方 笹野文作→西京府下 数珠通町 越後屋吉次郎様方 笹 野栄吉	明治26年3月20日	状	1	73
0178	書翰（礼状）	川崎太三郎商店→東京日本橋区通 二丁目蓬莱屋 笹野栄吉	明治26年3月20日	状	1	74
0179	書翰（①敦賀売鱈仕切証入 手の件等 ②写真受領通知 ③米塩相場 ④役員名簿）	函館支店方 笹野文作→西京府数 珠町 越後屋吉次郎様方 笹野栄 吉	明治26年3月21日	状	4	75
0180	書翰（①地震による被害状 況等 ②函館汽船衝突事故 等の件）	能登西海村 笹野留吉→西京府六 條通り上珠地町 神田イソ殿方 笹野栄吉	明治26年3月23日	状	2	5
0183	書翰（不在中の代印につい て）	函館富岡町 広谷順吉→能登国羽 喰郡風無村 笹野栄吉	明治26年4月4日	状	1	116
0184	書翰（塩買入れの件、塩鱈 売代金の件等）	備前国日比港 森本友太郎方 千 吉丸 平野重助→石川県能登国羽 喰郡西海村字風無 笹野栄吉	明治26年4月8日	状	1	16
0185	書翰（エトロフ産鱈の件、 鮭各場所の漁模様等）	北海道函館大町 青島権三郎→能 登国羽喰郡西海村字風無村 笹野 栄吉	明治26年4月15日	状	1	170
0186	書翰（船舶運航状況報告）	函館区大町四十四番地 ニヤマ忠 谷久蔵方 金津季次郎→石川県能 登国羽喰郡西海村字風無 内山と め様方ニテ 笹野栄吉	明治26年4月15日	状	1	64
0182	ハガキ（塩鱈大不人気の 件）	横浜真砂町一丁目十五番地 カネ シメ井上竹次郎→東京日本橋区通 二丁目 式部小路旅店 蓬莱屋方 笹野	明治26年4月1日	状	1	129
0187	書翰（電信による米の注文 に対しての返書）	新潟市船場町一丁目 嶋 浅太郎 →函館旅籠町 笹野栄吉様 商用	明治26年4月26日	状	2	22
0188	書翰（販売不振と各地魚介 類の相場報告）	横浜 カネシメ井上竹次郎→北海 道函館旅籠町 笹野支店御中	明治26年4月28日	状	1	61
0189	鹽釜商業新報 第9号（海 運業の前途 塩釜神社の大 祭典）		明治26年4月30日	状	1	
0190	書翰（塩鱈売行悪く延引の 報告）	岩城福島町通り高園内 青嶋国造 →北海道函館旅籠町四十番地 笹 野栄吉	明治26年5月1日	状	1	31
0191	書翰（米の取引についての 打合せ）	新潟市船場町一丁目 カクタ島浅 太郎→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年5月1日	状	1	2

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0192	書翰	広谷順吉→函館旅籠町（笹野） 榮吉	明治26年5月3日	状	1	
0193	書翰（冬期に於けるカムサ ツカ近傍の探検の試みの 件）	東京露国公使館内 鈴木於兎平→ 北海道函館区旅籠町40番地 笹野 榮吉	明治26年5月5日	状	1	162
0194	新潟商況新報 第42号（雑 報）	新潟市上大川前通10番町17番戸 新潟商況新報社 発行人 坂井磯 松	明治26年5月8日	状	1	
0195	書翰（手形の件、久徳丸破 損の件等）	東京虎之内門内 露国□□館 鈴木 於兎平→北海道函館港旅籠町四十 番地 笹野榮吉	明治26年5月10日	状	1	62
0196	塩釜商業新報 第10号（松 島湾實測の概況）	宮城県仙台国分町142番地 東北新 聞社 砂野良尚	明治26年5月10日	状	1	
0197	案内状（遷拂會法要並参列 次第）	渡嶋國龜田郡龜田村62番地 大谷 派本願寺別院所属 龜田説教場→ 旅籠町 笹野榮吉	明治26年5月10日	状	2	
0198	ハガキ（鮭粕・塩の価格に ついて）	岡山県児島日比 森本友太郎→渡 島國函館庫大黒町五十番地 平野 重助	明治26年5月11日	状	1	
0199	書翰（拝借金の件）	東京市京橋区松屋町一丁目 マル キ鈴木弥兵衛→函館 旅籠町 笹 野榮吉	明治26年5月11日	状	1	201
0200	書翰（近況報告）	山形県西田川郡下川 善寶寺 供 養塔係→北海道函館旅籠町 笹野 榮吉	明治26年5月11日	状	1	24
0201	書翰（相川丸にて積送り金 子の件）	松前泊川町17番地 内山家内より →函館区ハタゴマツ40番地 笹野 榮吉	明治26年5月12日	状	1	1
0202	土崎商報 第47号（官報、 雑報、商況）	秋田土崎港清水町60番地 中外商 報社 発行人 工藤百八郎	明治26年5月13日	状	1	
0203	書翰（礼状）	東京京橋区宗十郎町21番地 田中 安方 岩村吉太郎→北海道函館旅 籠町 笹野榮吉	明治26年5月13日	状	1	
0204	書翰（借金返済について）	釧路真砂町 木下弥三吉→函館区 旅籠町 サジルシ笹野榮吉	明治26年5月14日	状	1	120
0205	書翰（招待取消のお知らせ）	函館汽船会社→笹野榮吉	明治26年5月14日	状	1	67
0206	書翰（樺太塩鱈、択捉鱈の 値段報告等）	東京本材木町一丁目七番地 渡辺 治右衛門→函館旅籠町 笹野榮吉	明治26年5月18日	状	1	47
0207	書翰（為替手形の送付の 件）	□浜真砂町一丁目十五番地 福泉 重兵衛→函館船場町 橋本金太郎	明治26年5月20日	状	1	66
0208	塩釜商業新報 第11号（漁 網の一新発明）	宮城県仙台国分町142番地 東北新 聞社 砂野良尚	明治26年5月20日	状	2	
0209	ハガキ（送金金額及び雇夫 の件）	（渡島）福 内山元太郎→函館 ハタゴ町四十番地 笹野榮吉	明治26年5月22日	状	1	
0210	新潟日日商況 第2179号 （北海道の鯨漁）	新潟市上大川前通10番地 新潟日 日商況社 坂井藤蔵	明治26年6月16日	状	1	
0211	書翰（船内紛失品の件）	新潟市下大川前通七之町 新潟運 送株式会社→北海道函館港旅籠町 笹野榮吉	明治26年7月16日	状	1	338
0212	書翰（樺太出漁に対する賛 辞）	日本國石川県金澤市上胡桃町四十 九番地 小村外口男→魯領薩哈噠 嶋コルサコフ港富士商店 笹野留 吉	明治26年8月27日	状	1	167
0213	書翰（火事見舞）	石川県能登國羽咋郡西海村字風無 磯部文蔵→北海道函館区旅籠町四 十番地 笹野榮吉	明治26年8月27日	状	1	88
0214	書翰（近況報告）	石川県羽咋郡西海村 笹野店→北 海道函館旅籠町四十番地 笹野榮 吉	明治26年9月3日	状	1	133
0215	書翰（出働科の前金の拝借 について）	東川町240番地 5番組向 堀尾多 七→当区旅籠町 サジルシ笹野榮 吉	明治26年9月4日	状	1	183
0216	書翰（幸福丸入船報告等）	石川県羽咋郡西海村 笹野店→北 海道函館区旅籠町40番地 笹野支 店方ニテ 大椿仁太郎	明治26年9月13日	状	1	23

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0217	書翰（近況報告）	石川県羽咋郡西海村 笹野店→函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治26年9月15日	状	1	94
0218	書翰（礼状）	東京府下谷区二長町52番地 鈴木尚三→函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治26年9月15日	状	1	27
0219	ハガキ（鮭鱒の出来状況報告）	直江津 古川長四郎→渡島国函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治26年9月17日	状	1	
0220	書翰（断状）	日高浦河郡浦河村 中村恵藏→函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治26年9月17日	状	1	95
0221	書翰（鮭鱒買捌状況及米等の景況）	新潟船場町 島浅太郎方 橋丸間浦長太郎→北海道函館区旅籠町 笹野栄吉	明治26年9月18日	状	1	92
0222	ハガキ（塩鮭各地の値について）	塩竈港 白石商店→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年9月18日	状	1	
0223	ハガキ（塩買い入れの件）	越前国三國町 小石治郎助→北海道函館港旅籠町四十〇番地 笹野栄吉	明治26年9月20日	状	1	
0224	書翰（母の病状連絡等）	福山川町 内山方 橋本みき→函館旅籠町四十番地 笹野様方ニテ内山御母上	明治26年9月21日	状	1	90
0225	封筒	福山泊川町 内山元太郎→函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治26年9月23日	状	1	
0226	書翰（講演の通知）	東京海上保険株式会社 支配人 益田克徳→笹野栄吉	明治26年9月23日	状	1	
0227	ハガキ（嫡子栄治死去に伴う悔状）	日本橋区平形町七番地 森巳之助→渡島国函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治26年9月24日	状	1	
0228	ハガキ（送金礼状）	牛込区大久保余丁町二十九番地 川住正徳→函館旅籠町四十番地 笹野栄吉・文作	明治26年9月26日	状	1	
0229	書翰（近況報告）	石川県羽咋郡西海村 笹野店→北海道函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年9月27日	状	1	18
0230	書翰（病気見舞礼状）	福（山） 内山元太郎→函館旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治26年9月28日	状	1	87
0231	書翰（新鮭、鱒、数ノ子等の商況について）	東京市日本橋区元四日市町八番地 マルキタ北海道田中合名会社→函館ハタコ町 笹野栄吉	明治26年9月29日	状	1	
0232	ハガキ	塩竈港 白石商店→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年9月30日	状	1	
0233	書翰（水陸運輸会社の株について）	陸前塩竈港停車場前 白石広造→渡島国函館区旅籠町 サジルシ 笹野栄吉	明治26年10月1日	状	1	132
0234	書翰（鱒、玄米、米の値段等の件）	新報天丸 鳴瀬由太郎→函館区旅籠町 笹野栄吉	明治26年10月3日	状	1	126
0235	書翰（病気見舞礼状）	福山 内山元太郎→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年10月4日	状	1	86
0236	書翰（国後、シベツと樺太鮭鱒の商況報告）	東京市日本橋区元四日市町八番地 マルキタ北海道田中合名会社→函館旅籠町 サジルシ 笹野栄吉	明治26年10月4日	状	1	29
0237	書翰（小切手送付の連絡）	東京市京橋区松屋町一丁目 マルキ 鈴木弥兵衛→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年11月24日	状	1	40
0238	書翰（①不動産情報について ②海岸干場之図 ③建屋配置図）	釧路真砂町 木下彌三吉→函館区ハタコ町 笹野栄吉	明治26年12月3日	状	3	168
0239	ハガキ（株主入札の件）	東京市麻布区本村町百四十五番地 東京製網株式会社→北海道函館区仲浜町二十二番地 笹野栄吉	明治26年12月3日	状	1	
0240	書翰（鮭代金等の件）	越後 古川長四郎→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年12月4日	状	1	134
0241	書翰（鱒売買の件、生糸相場の件）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年12月4日	状	1	182
0242	ハガキ（仕切書追送の件）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→函館旅籠町 笹野栄吉	明治26年12月5日	状	1	296

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0243	ハガキ（鮭売買の件）	宮城県陸前国塩竈港四百五番地 塩竈水産会社→函館旅籠町 笹野 栄吉 御店様	明治26年12月5日	状	1	294
0244	書翰（釧路硫黄鉱経営につ いて）	福井県敦賀港 大和田莊七→北海 道函館港旅籠町 笹野栄吉	明治28年2月5日	状	1	172
0245	書翰（函館水道増設費公借 金について）	北海道函館区役所→笹野栄吉	明治28年3月4日	状	1	110
0246	書翰（寄附の件）	赤十字社北海道支部 函館区委員 長 賤部羌→旅籠町40番地 笹野 栄吉	明治28年3月13日	状	1	208
0247	書翰（総会案内）	北海道函館区役所→笹野栄吉	明治28年3月25日	状	1	
0248	書翰（北門丸新規購入の 件）	兵庫宮内町 筏本方 渡辺清次郎 →函館船場町 函館汽船株式会社 専務取締役 広谷源治	明治28年4月4日	状	7	155
0249	書翰（硫黄鉱山経営の件）	釧路真砂町 宮本千万樹→函館旅 籠町 笹野栄吉	明治28年4月5日	状	1	171
0250	書翰（給料の件）	林とし吉→笹野大雅 □□□ 佐々木字之吉件	明治28年4月6日	状	1	240
0251	書翰（硫黄取引の件、諸 事打合せ）	青森米町 鎌田嘉助→箱館旅籠町 サジルシ 笹野栄吉	明治28年4月7日	状	1	173
0252	封筒	サハクネ、ワーク漁舎 池久壽亀 →函館区旅籠町 笹野栄吉	明治28年7月12日	状	1	
0253	書翰（送金報告と諸事報 告）	函館区旅籠町 笹野支店→石川県 能登国鹿島郡七尾町字大手町 輪 島屋方 笹野栄吉	明治28年7月23日	状	1	275
0254	書翰（礼状）	能登国羽咋郡西海村字風無 坂本 市郎平方 橋野儀平→北海道函館 区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治28年7月24日	状	3	153
0255	書翰（コルサコフでの住居 等の件）	哥尔薩港 留吉押→北海道函館旅 籠町40番地 笹野栄吉 小樽迄 蒼龍丸ノ便	明治28年9月15日	状	1	154
0257	書翰（可能鉄道株金払い込 みの件）	東京市京橋区松屋町一丁目 マル キ鈴木彌兵衛→函館旅籠町 笹野 栄吉	明治29年6月19日	状	1	230
0258	書翰（入金と商況報告。地 震・津波の件）	函館旅籠町 笹野支店→石川県 能登国羽咋郡西海村字風無 笹野 栄吉	明治29年6月24日	状	1	263
0259	書翰（依頼品買入れ立替の 件）	在露カルサコフ港 組合商店→ 函館区旅籠町ニテ 笹野支店	明治29年6月24日	状	1	266
0260	書翰（保証金支払依頼と注 文品相場通知等）	北海道函館区幸町 カネムネ小谷 和右衛門→石川県羽咋郡西海村字 風無 笹野栄吉	明治29年6月25日	状	1	265
0261	書翰（近況報告）	函館旅籠町四十番地 □笹野支店 →石川県能登国羽咋郡西海村字風 無 笹野栄吉	明治29年6月25日	状	1	256
0262	ハガキ（挨拶）	西海村字風無 橋野儀平→函館区 旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年6月30日	状	1	333
0263	書翰（早便お届けの連絡）	東京京橋区木挽町 厚生館 島田 紘→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年7月2日	状	1	314
0264	書翰（①株主通常総会案内 状 ②委任状）	株式会社 函館米穀塩海産物取引 所→旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年7月2日	状	2	
0265	書翰（注文の染物延引理由 について）	鳳至郡輪島町字鳳至下町 中島軍 平→羽咋郡西海村字風無村 笹野 栄吉	明治29年7月3日	状	1	316
0266	ハガキ（七尾鉄道株主名義 に関する委任の件）	東京市日本橋区馬喰町一丁目 平 尾賛平→函館旅籠町四十番地 笹 野栄吉	明治29年7月9日	状	1	352
0267	書翰（漁模様報告）	福山泊川町 内山元太郎→函館旅 籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年7月10日	状	1	267
0268	ハガキ（荷物送付連絡）	伏木港 宇塚三右衛門→北海道函 館旅籠町 笹野栄吉	明治29年7月12日	状	1	357
0269	書翰（借金皆済報告）	岩手県北九戸郡伊保内村小の寺 喜惣治方出張 青島権三郎押→北 海道函館区旅籠町 サジルシ 笹野 栄吉	明治29年7月16日	状	2	264
0270	書翰（近況報告）	マルキタ北海道田中合名会社→笹 野栄吉	明治29年7月25日	状	1	

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形態	数量	書下
0271	ハガキ（暑中見舞）	大阪市西区南堀江三番町水分橋角 木谷市郎兵衛→笹野栄吉	明治29年8月1日	状	1	204
0272	書翰（近況報告）	能登西海村字風無 笹野留守居より →北海道函館区旅籠町40番地 笹野	明治29年8月2日	状	1	4
0273	書翰（①海産物商況について ②相場一覧）	東京日本橋区青物町百十六番地 渡邊大治郎→旅籠町 笹野様支店	明治29年8月3日	状	2	77
0274	書翰（①海産物商況について ②相場一覧）	東京日本橋区青物町十六番地 渡 邊大治郎→函館港旅籠町 笹野様 支店	明治29年8月4日	状	2	79
0275	書翰（預け金の返還願いと 会社譲渡の件）	釧路真砂町 大和田碓業事務所 田中英俊→函館市旅籠町四十番地 笹野支店	明治29年8月8日	状	1	342
0276	書翰（船舶購入の件等）	越中伏木港 高辻回漕店→渡島国 函館港大町 笹野栄吉	明治29年8月14日	状	1	335
0277	書翰（送金の件）	横浜南仲通五丁目 横浜正金銀行 外國爲換部→函館旅籠町四十二 笹野栄吉	明治29年8月15日	状	1	344
0278	書翰（雇用に関する件）	哥港 鈴木陽之助→函館旅籠町 笹野留吉様 托送 二見丸 笹野 栄吉	明治29年8月18日	状	4	151
0279	書翰（漁場模様と北海道丸 会計に関する件）	露国西伯利州黒龍江 ニコライ スク 済藤方 大橋仁太郎→函館区旅 籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年8月19日	状	1	52
0280	ハガキ（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 田淵 甚右門→北海道函館区旅籠町40番 地 笹野栄吉	明治29年8月23日	状	1	
0281	書翰（火事見舞）	根室緑町一丁目十番地 中柳庄 松→函館港旅籠町 サジルシ笹野 栄吉	明治29年8月26日	状	1	50
0282	書翰（漁場の安否確認と奉 公人使用願ひ）	石川県能登国羽咋郡西海村字風な し 笹野留守居より→北海道函館 区旅籠町四十番地 笹野支店	明治29年8月26日	状	1	268
0283	書翰（火事見舞）	東京市麹町区五番町四番地 松浦 賢→函館旅籠町四十番地 笹野栄 吉	明治29年8月27日	状	1	
0284	ハガキ（火事見舞）	能登七尾港生弱町 ダイサ大津佐 治拓衛門→函館旅籠町 サジルシ 笹野支店	明治29年8月27日	状	1	
0285	ハガキ（火事見舞）	松前福山泊川 内山太郎→函館旅 籠町 サジルシ笹野栄吉	明治29年8月27日	状	1	
0286	ハガキ（火事見舞）	大阪市西区立売堀北通六丁目 カ クダイ今井船具店→函館中浜町 笹野久七	明治29年8月27日	状	1	
0287	書翰（火事見舞と昆布の 件）	釧路真砂町 木下弥三吉→函館区 旅籠町 笹野栄吉 綱木母ニ托ス	明治29年8月27日	状	2	55
0288	書翰（漁場の状況と諸件の 報告問い合わせ）	石川県羽咋郡西海村字風無 坂本 宅次郎→北海道函館区旅籠町四十 番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	203
0289	書翰（火事見舞）	能登羽咋郡西海村字風無 小谷鉄 吉 家内より→北海道函館区旅籠 町 サジルシ笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	200
0290	書翰（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 畑原 與四郎→北海道函館区旅籠町四十 番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	197
0291	ハガキ（火事見舞）	厚岸港松葉町 矢部弥平→函館区 旅籠町 サジルシ笹野支店	明治29年8月28日	状	1	106
0292	ハガキ（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 柳瀬 忠藏→北海道函館区旅籠町 サジ ルシ笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	105
0293	書翰（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 畑中 文四郎→北海道函館区旅籠町四十 番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	113

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0294	ハガキ（火事見舞）	東京市麹町区中六番町十三番地 鈴木米政→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	309
0295	書翰（火事見舞）	西海村字風なし 小六三郎→北海道函館区旅籠町四十番地 サジルシ 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	46
0296	書翰（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 笹野市郎→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	56
0297	書翰（御送金受取のお礼と 借家類焼見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 □細藤作→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	190
0298	ハガキ（火事見舞）	能登国羽咋郡西海村 □淳→北海道函館区旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	
0299	ハガキ（火事見舞）	渡島国福山泊川町 川内精作→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	
0300	ハガキ（火事見舞）	東京市日本橋区貳丁目八番地 中田與三兵衛→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	
0301	ハガキ（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 坂本市郎→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	
0302	ハガキ（火事見舞）	宮城県陸前国塩竈港 塩竈水産株式会社→函館港旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	
0303	ハガキ（火事見舞）	兵庫鍛冶屋町 喜多野商店→函館天神町 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	
0304	ハガキ（火事見舞）	秋田土崎港小野町 安田常吉→函館旅籠町 笹野文七	明治29年8月28日	状	1	
0305	ハガキ（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 平山四平→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	
0306	書翰（①漁模様について ②入船状況および沈没船について）	津軽郡深浦 カネセン印 枝幸丸 木下弥三左衛門→北海道函館旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	2	238
0307	ハガキ（火事見舞）	陸前国塩竈 青島権三郎 国造 輝→函館区旅籠町四十八番地 笹野の栄吉	明治29年8月28日	状	1	274
0308	ハガキ（火事見舞）	東京赤坂国公使館 鈴木於兎平→北海道箱館港旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年8月28日	状	1	283
0309	ハガキ（鎮火御見舞）	東京日本橋区元間市 日本郵船株式会社 堀文治→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月29日	状	1	
0310	ハガキ（大連丸積荷の打合せ）	東京日本橋区本材木町1丁目7番地 渡邊治右衛門→函館港旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月29日	状	1	
0311	ハガキ（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字外浦 内越多右門→北海道函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月29日	状	1	
0312	ハガキ（火事見舞）	越後直江津 □野崎商店→北海道函館はたご町 笹野栄吉	明治29年8月29日	状	1	
0313	ハガキ（火事見舞）	新潟市礎町四ノ町□番戸 白井慶吉→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月29日	状	1	
0314	ハガキ（火事見舞）	西海村字風無 高岩平助→北海道函館区旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月29日	状	1	
0315	ハガキ（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 川路清太郎→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月29日	状	1	
0316	書翰（火事見舞）	大阪市西区本田二丁目百八十二番邸 永田橋東詰 中山信成→北海道函館区旅籠町 南船学校裏 笹野栄吉	明治29年8月29日	状	1	169
0317	書翰（火事見舞）	西村治作→笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0318	書翰（火事見舞）	能登国羽咋郡西海村字風無 坂本宅次郎→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	199

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0319	書翰（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 西村治作→北海道函館区旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	21
0320	ハガキ（火事見舞）	西海村字風無 小綱長松→函館旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0321	ハガキ（火事見舞）	新潟市毘沙門町 竹本庄平→函館市旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0322	ハガキ（火事見舞）	西海村字風無 板野貞子→函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0323	ハガキ（火事見舞）	西海村字風無 橋野義子→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0324	ハガキ（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 川辺紋平→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0325	ハガキ（火事見舞）	富山県伏木港 定塚三左エ門→北海道函館港弁てん町 笹野栄吉様御支店	明治29年8月30日	状	1	
0326	ハガキ（火事見舞）	伯耆国境港 渡邊多七郎→北海道函館区旅籠町 笹野栄吉様支店	明治29年8月30日	状	1	
0327	ハガキ（火事見舞）	東京日本橋区松島町46番地 白崎慎吉→函館区旅籠町40番地	明治29年8月30日	状	1	
0328	ハガキ（火事見舞）	陸前塩竈港停車場前 内海周輔→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0329	ハガキ（火事見舞）	土崎湊古川町 佐々木寅吉→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0330	ハガキ（火事見舞）	北海道福山港 大橋数右衛門出張所 内山貞藏→函館市旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0331	ハガキ（火事見舞）	大三岡田文 大一漁場係→函館旅籠町 佐々野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0332	ハガキ（火事見舞）	能登国羽咋郡西海村字風無戸 大庭長太郎→北海道函館区旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	130
0333	ハガキ（火事見舞）	羽咋郡西海村干浦 内越方→北海道函館港旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	
0334	書翰（火事見舞）	東京市京橋区松屋町一丁目 マルキ鈴木弥兵衛→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月30日	状	1	259
0335	ハガキ（火事見舞）	能登国羽咋郡西海村字風無 磯部弥左エ門→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	
0336	ハガキ（火事見舞）	能登国羽咋郡西海村字風無 中島惣三郎→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	
0337	ハガキ（火事見舞）	釧路真砂町 石津彦平→函館旅籠町 サジルシ 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	297
0338	ハガキ（火事見舞）	能登西海村 橋善五郎母拝→北海道函館旅籠町四十番地 サジルシ 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	205
0339	ハガキ（火事見舞）	石川県羽咋風無 木下弥太郎→函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	288
0340	ハガキ（火事見舞）	能登字干浦 板倉助太夫→北海道函館区旅籠町 笹野栄吉 弥三右エ門	明治29年8月31日	状	1	
0341	ハガキ（火事見舞）	大坂南堀江通4丁目 今井嘉一郎→渡島国函館中浜町 笹野文七	明治29年8月31日	状	1	
0342	ハガキ（火事見舞）	東京都日本橋区青物町16番地 渡邊大次郎→函館旅籠町 笹野・支店	明治29年8月31日	状	1	
0343	ハガキ（火事見舞）	兵庫宮内町 藤本安兵衛→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	
0344	ハガキ（火事見舞）	大阪市西区南堀江3番町水分橋南木谷市郎兵衛→北海道函館 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0345	ハガキ（火事見舞）	東京日本橋区葦屋町3番地 麻芋 岩糸商 チガイヤマフ小竹市兵衛 →函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	
0346	ハガキ（火事見舞）	東京日本橋区江戸橋 第一百十三 立銀行支店 八谷信三→函館旅籠 町四十番地 笹野栄吉	明治29年8月31日	状	1	102
0347	ハガキ（樺太残留可否につ いて）	大沢村七十五番地 三浦三次郎 宿元より→函館区旅籠町 サジ ルシ笹野支店	明治29年9月1日	状	1	301
0348	書翰（火事見舞）	厚岸郡浜中村 渡辺實三郎→旅籠 町 笹野栄吉	明治29年9月1日	状	1	159
0349	ハガキ（火事見舞）	京都三条小橋西入 マルマン萬屋 甚兵衛→北海道函館区旅籠町40番 地 笹野支店	明治29年9月1日	状	1	
0350	ハガキ（火事見舞）	能登七尾 イゲタエ真木安右エ門 →函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月1日	状	1	
0351	ハガキ（火事見舞）	越後直江津 古川長四郎→函館旅 籠町 笹野栄吉	明治29年9月1日	状	1	
0380	書翰（火事見舞）	石川県能登郡西海村 堺庄右衛門 →北海道函館区旅籠町 サジ ルシ笹野栄吉	明治29年9月28日	状	1	144
0352	ハガキ（火事見舞）	敦賀港 大和田商店→渡島国函館 旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月2日	状	1	
0353	ハガキ（火事見舞）	静岡県掛川町 山内寅吉→函館区 旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月2日	状	1	
0354	書翰（火事見舞）	根室本町 山本又三郎→函館旅籠 町 笹野栄吉	明治29年9月2日	状	1	19
0355	ハガキ（七尾鉄道株券等につ いて）	東京市京橋区松屋町一丁目 マル キ鈴木弥兵衛→函館旅籠町 笹 野栄吉	明治29年9月3日	状	1	353
0356	ハガキ（帰着報告）	新潟市船場町一丁目 カクタ島 浅太郎 店→函館旅籠町 サジ ルシ笹野栄吉	明治29年9月3日	状	1	354
0357	書翰（火事見舞）	能登国羽咋郡西海村字風無 小瀧 重平→函館区旅籠町四十番地 笹野支店	明治29年9月3日	状	1	255
0358	書翰（火事見舞、樺太方面 の漁模様及び積荷扱状況）	□□□□町六丁目貳番地 広谷支 店→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月4日	状	1	81
0359	ハガキ（火事見舞）	羽前西田川郡下川 善宝寺→北海 道函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月4日	状	1	355
0360	書翰（火事見舞）	羽咋郡西海村字風無万福寺内 本 田義成→北海道函館旅籠町 笹 野栄吉	明治29年9月4日	状	1	217
0361	ハガキ（火事見舞）	堀川町 小坂彦作→北海道函館旅 籠町 笹野栄吉	明治29年9月5日	状	1	
0362	ハガキ（火事見舞）	根室花咲町148番地 上坂文二郎→ 函館旅籠町 サジルシ笹野栄吉	明治29年9月5日	状	1	
0363	ハガキ（火事見舞）	能登中安 白崎如平→函館旅籠町 サジルシ笹野栄吉	明治29年9月6日	状	1	
0364	ハガキ（火事見舞）	ノトトギ 玉川益平→函館区之ハ タゴ町 サジルシ笹野栄吉	明治29年9月6日	状	1	308
0365	ハガキ（火事見舞）	伏木湊町四十九番地 福山和三郎 →函館旅籠町 サジルシ笹野栄吉	明治29年9月6日	状	1	229
0366	ハガキ（火事見舞）	釧路市松田事務所 田中英俊→函 館区旅籠町40番地 笹野支店	明治29年9月6日	状	1	
0367	ハガキ（火事見舞）	岩手県東和賀郡黒沢尻町大字里分 城澤朝吉→渡島国亀 函館旅籠町 商船学校隣 サジルシ笹野栄吉	明治29年9月6日	状	1	315
0368	書翰（火事見舞）	石川県能登国羽咋郡西海村字千浦 日野是空→北海道函館旅籠町 サ ジルシ笹野栄吉	明治29年9月7日	状	1	112
0369	ハガキ（火事見舞）	浦河村 中村直造→函館旅籠町 サジルシ笹野栄太郎	明治29年9月8日	状	1	328

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書 下
0370	ハガキ（火事見舞）	根室梅ヶ枝町1丁目4番地 田淵彦松→函館区旅籠町 サジルシ笹野栄吉	明治29年9月8日	状	1	339
0371	ハガキ（火事見舞）	根室本町 新玉利七→函館区旅籠町四十番地 佐々野文七	明治29年9月10日	状	1	356
0372	書翰（火事見舞）	福山 内山元太郎→函館旅籠町笹野栄吉	明治29年9月12日	状	1	146
0373	書翰（①魚貝類の売り込み ②相場書）	東京日本橋区青物町16番地 渡邊大治郎→函館港旅籠町 笹野御支店	明治29年9月13日	状	2	143
0374	書翰（病気見舞）	鈴木陽之助→函館 笹野栄吉 愚妻携帯	明治29年9月14日	状	3	150
0375	ハガキ（火事見舞）	蓬萊町五十二番地 伊藤亀蔵→函館区旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月14日	状	1	307
0376	ハガキ（山城丸にて到着の報告）	横浜港本町 上州屋方 永谷武次郎 綱木母→函館市旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月15日	状	1	101
0377	書翰（火事見舞と鮭鱒の商模様）	新口礎町 白井慶吉方 佐藤清四郎→北海道函館区旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月15日	状	1	107
0378	書翰（枝幸丸善助号の件）	小樽港北浜町六丁目二番地 広谷順吉→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年9月15日	状	1	244
0379	書翰（悪天候見舞および米・鮪・鯖の値段について）	石川県羽咋郡西海村 笹野店→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年9月19日	状	1	13
0381	書翰（千吉丸・枝幸丸入港の件）	カルサコフ於幸丸 木下弥三右門→日本北海渡函館旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年10月1日	状	1	340
0382	封筒	東京市日本橋区元四日市町八番地 マルキタ北海道田中合名会社→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年10月25日	状	1	
0383	書翰（借入金返済の件）	石川県羽咋郡西海村字風無 黒崎留吉→函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年11月7日	状	1	196
0384	①書翰（千吉丸乗組員送金等の件）②記（千吉丸乗組員送金領収記録）	能登国羽咋郡西海村字風無 坂本宅次郎→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年11月8日	状	2	193
0385	書翰（送金遅延のお詫び）	青森県下北郡脇野沢村 川岸利三郎→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年11月10日	状	1	310
0386	書翰（礼状）	諸帳簿製造発売元 函館大町八番町 ゼニイチ常野嘉兵衛→当区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年11月13日	状	1	
0387	書翰（烏賊の漁模様）	能登七尾 大津や方 内越藤左衛門→函館旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年11月18日	状	1	149
0388	書翰（還附金の手形の件）	東京四谷大番町 久世原→函館旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年11月21日	状	1	114
0389	①書翰（入港通知および秋味売買状況）②物価表	船場町 小倉里蔵方 枝幸丸 竹田善助→北海道函館港はたご町 笹野御支店	明治29年11月22日	状	2	135
0390	書翰（滞在中のお礼）	能登国羽咋郡西海村字風なし 小瀧重兵衛→北海道函館区旅籠町四十番地 サジルシ笹野栄吉	明治29年11月22日	状	1	194
0391	①書翰（海産物商況について）②相場一覧	日本橋区青物町十六番地 渡邊大治郎→函館港旅籠町 笹野栄吉	明治29年11月24日	状	2	78
0392	書翰（金子送付の件）	東京市京橋区松屋町一丁目 マルキ鈴木弥兵衛→函館旅籠町 笹野栄吉様	明治29年11月24日	状	2	38
0393	書翰（商況報告）	南部船越港内 千穂国丸 與三兵衛→北海道函館旅籠町四十番地 笹野支店	明治29年11月25日	状	1	39
0394	ハガキ（滞在中のお礼）	敦賀町 富貴森與八方 田中英俊→北海道函館区旅籠町 笹野支店	明治29年11月26日	状	1	300
0395	書翰（手形金受取りの返事）	新潟市船場町一丁目 カクタ島浅太郎→函館区旅籠町 笹野栄吉	明治29年11月28日	状	1	246

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形態	数量	書下
0396	ハガキ（実地取調の件）	→函館区旅籠町四十番地 笹野支店	明治29年11月28日	状	1	293
0397	ハガキ（カラフトマス直段照会）	宮城県陸前国塩竈港 塩竈水産株式会社→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年11月29日	状	1	290
0398	①北海道産物水揚賃蔵入出賃及蔵敷定則 ②北海産物其他水揚賃之義従来相定候 ③帯	東京日本橋区本材木町一丁目七番地 渡邊治右衛門→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年11月	①冊 ②状 ③帯	3	
0399	ハガキ（免許取得、役員選定、事務引継の件）	函館船渠株式会社 園田實徳→北海道函館区旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年12月4日	状	1	
0400	封筒	東京市京橋区松屋町一〇〇 マルキ鈴木彌兵衛→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年12月15日		1	
0401	封筒	日本橋区青物町16番地 渡邊大治郎→函館港旅籠町 笹野栄吉	明治29年12月18日		1	
0402	書翰（樺太漁場拝借の件）	福山泊川町 内山元太郎→函館旅籠町40番地 笹野栄吉	明治29年12月20日	状	1	148
0403	書翰（塩切鱈売却の件等）	尾張国亀崎井口商会様方 千穂国丸 堀本與三兵衛→北海道函館区旅籠町 商船学校裏 笹野栄吉	明治29年12月22日	状	1	145
0404	ハガキ（珍品頂戴のお礼）	東京市京橋区松屋町一丁目 マルキ鈴木弥兵衛→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年12月22日	状	1	306
0405	ハガキ（雑穀売買の件）	尾張國知多郡亀崎町 新美昇平肥料店→函館港町 笹野栄吉	明治29年12月25日	状	1	
0406	書翰（株主通常総会、臨時総会開催の通知）	株式会社 函館米穀監海産物 株式取引所→函館旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治29年12月29日	状	1	
0407	ハガキ（祖母死亡の通知）	陸奥下北郡易国間村 広谷源治→函館旅籠町 笹野栄吉	明治29年	状	1	305
0408	電報（ブジチャ（ク）（シ）（タ））	ハコタテ ササノブンサク→ミクニ ヤマトゼン七方 ササノエイキチ	明治29年4月17日	状	1	
0409	書翰（当座預金等の件）	合名会社三井銀行函館支店→笹野栄吉	明治30年2月20日	状	1	34
0410	書翰（商品売却の報告）	愛知県知多郡亀崎町 井口商会ニテ 千ホ国丸 與三兵衛→石川県能登国羽咋郡西海村字風無 笹野栄吉	明治30年3月11日	状	2	33
0411	書翰（船体検査終了報告と塩相場高値の件）	兵庫東出町三丁目 伊勢七衛様方ニ 千吉丸 平野重助→石川県能登国羽咋郡西海村字風無 笹野栄吉	明治30年3月11日	状	1	42
0412	書翰（①長女の件等 ②長女の件）	①鳳至郡兜村字甲伯宗平新宅ニテ的場リツ→①鹿島郡七尾町字作事町 三野弥吉・全御老母 ②石川県鹿島郡七尾町字作事町→②北海道函館港旅籠町四十番地 サジルシ 笹野栄吉	①明治30年3月16日 ②明治30年3月24日	状	2	35
0413	書翰（①船の修理について買入代金支払依頼、大工への残金為替送付 ②艀粕の状況について）	①三重県市川源吉方 千穂国丸 堀本与三兵衛 ②亀崎町 竹口方 千穂国丸 堀本与三兵衛→北海道函館旅籠町四十番地 笹野支店	①明治30年3月22日 ②明治30年3月18日	①状 ②状	①1 ②3	131
0414	書翰（塩の買付けと艀粕の相場についての報告）	備前国児嶋郡日比港 森本友太郎方 千吉丸 平野重助→石川県羽咋郡西海村字風無 笹野栄吉	明治30年3月21日	状	2	17
0415	書翰（奥羽水陸運輸（株）からのハガキ送付通知）	石川県羽咋郡西海村字風無 坂本宅次郎→北海道函館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治30年3月23日	状	1	41

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書 下
0416	書翰（礼状）	石川県羽咋郡西海村字風無 横畑 豊吉→函館区はたご町 笹野栄吉	明治30年3月25日	状	1	212
0417	封筒	石川県羽咋郡西海村字風無 笹野 本店 留守居→北海道函館区旅籠 町四十番地 笹野御支店 笹野栄 吉	明治30年3月25日		1	
0418	書翰（漁具の搬送につい て）	能登七尾港生駒町 ダイサ大津佐 次右衛門→函館旅籠町40番地 笹 野支店	明治30年3月25日	状	1	15
0419	書翰（千徳丸修繕の品代 請求）	東京市京橋区松屋町一丁目 マル キ鈴木弥兵衛→函館旅籠町 笹野 栄吉	明治30年3月28日	状	1	128
0420	ハガキ（後任住職披露の通 知）	山形県羽前国西田川郡西郷村大字 下川 善宝寺□□→北海道渡嶋国 函館区旅籠町 笹野栄吉	明治30年3月30日	状	1	298
0421	ハガキ（依頼の件、終了通 知）	陸前塩竈港停車場前 白石商店→ 北海道函館旅籠町四十番地 笹野 御支店	明治30年3月31日	状	1	
0422	書翰（着函通知に対する返 書）	石川県鹿島郡北大呑林字庵 石垣 五左衛門→函館旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治30年3月31日	状	1	51
0423	封筒（封筒裏に「尚私共出 航ハ二十日ニ延行致シ候 御承知迄申上候」とあり）	函館天神町 内山吉太→カルサコ フ日本商店ニテ 長谷川・笹野	明治30年4月6日		1	
0424	①証（金額受取証） ②証 書（金額受取証書）		①明治30年11月18日 ②明治30年10月1日	状	2	253
0427	ハガキ（明治30年度経費予 算認可を得た報告）	函館商業会議所 喜三郎→笹野栄 吉	明治30年	状	1	
0425	敦賀商報 第178号（商況）	福井県敦賀郡敦賀町晴明35番地 敦賀商報社 山上荘介	明治31年9月15日	状	1	
0426	欠番					
0428	書翰（造船所焼失後の再興 について）	函館造船所 平田文右衛門・山尾 福三→笹野栄吉	明治 1月5日	状	1	213
0429	書翰（残金返済の問合わせ の件）	笹野→東浜町 村山紋太郎	明治 1月7日	状	1	247
0430	書翰（北門丸破損の件）	函立港船会社 堀内→笹野	明治 1月8日	状	1	210
0431	書翰（役員会議開催と社印 について）	田中正右衛門→笹野栄吉	明治 1月8日	状	1	122
0432	書翰（網類御用命につき値 段の通知）	陸中国水澤大町 ヤマト菊地養蔵 →函館区旅籠町 サジルシ笹野栄 吉	明治 1月18日	状	1	251
0433	書翰（鱒の購入依頼）	小熊幸一郎→ハタゴ町 笹野御店	明治 1月23日	状	1	119
0434	書翰（総会延期、社長交代 に対する相談について）	笹野栄吉→田中社長	明治 1月24日	状	1	3
0435	書翰（来翰通知）	宿直 大脇道寧→社長	明治 1月27日	状	1	8
0436	書翰（歌舞伎観劇の案内）	東京日本橋元四日市町8番地 北 海道商会→蓬莱屋方 笹野栄吉	明治 1月27日	状	1	156
0437	書翰（汽船会社株券切換の 指図依頼）	支店→在東京 笹野栄吉	明治 1月29日	状	1	278
0438	書翰（三田尻食塩の儀につ いて）	三木栄→笹野栄吉	明治 2月4日	状	1	109
0439	書翰（社長広谷順吉氏辞 職。株券について）	笹野支店→東京市日本橋区通 蓬 萊屋方 笹野栄吉	明治 2月6日	状	1	243
0440	書翰（在宅通知依頼）	露国公使館 鈴木於兎平→笹野栄 吉	明治 2月21日	状	1	282
0441	書翰（汽船会社定式総会に ついて）	笹野文作→日本橋区通り二丁目 蓬莱家方 笹野栄吉	明治 2月23日	状	1	123
0442	書翰（①打合せ通知 ②書 翰披見の依頼）	木挽町 岩村吉太郎→築地二丁目 四十五番地 山本正徳	明治 3月4日	状	2	269
0443	書翰（船舶調査の件）	東京市京橋区松屋町一丁目 マル キ鈴木弥兵衛→蓬莱屋方 笹野	明治 3月5日	状	1	45

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0444	書翰（面会の件）	築地 山本正徳→蓬萊町 笹野栄吉	明治 3月6日	状	1	118
0445	書翰（釧路硫黄採掘の件等）	東京本郷区弓町一丁目廿番地 江政敏→笹野栄吉	明治 3月7日	状	1	174
0446	書翰（鱒の売捌状況等）	笹野文作→笹野栄吉	明治 3月8日	状	1	176
0447	書翰（管船局の件）	木挽町ニテ 岩村吉太郎→日本橋通二丁目 蓬萊屋方 笹野栄吉	明治 3月8日	状	1	277
0448	書翰（宣告決定の報告）	木挽町 岩村吉太郎→日本橋通り二丁目 蓬萊屋方 笹野栄吉	明治 3月10日	状	1	276
0449	書翰（貸金未収の報告）	笹野本店→笹野支店	明治 3月12日	状	1	250
0450	記（郵船会社への汽船引渡し証）	東京市京橋区松屋町一丁目 マルキ鈴木弥兵衛→蓬萊屋方 笹野	明治 3月13日	状	1	312
0451	書翰（諸事の通知）	木挽町 岩村吉太郎→日本橋通り二丁目 蓬萊屋方 笹野栄吉	明治 3月14日	状	1	258
0452	書翰（結果宣告決定の一報）	木挽町 岩村吉太郎→日本橋通二丁目 蓬萊屋方 笹野栄吉	明治 3月16日	状	1	270
0453	書翰（函館軍人家族保護会会則）	函館軍人家族保護会→旅籠町40番地 笹野栄吉	明治 3月23日	状	2	
0454	書翰（七尾方面の状況報告）	七尾大津方 笹野文作→在風無 笹野栄吉	明治 3月27日	状	1	152
0455	書翰（開業小宴開催の案内）	北海道函館区末広町二番地 株式会社函館銀行→笹野栄吉	明治 3月30日	状	1	
0456	ハガキ（帰国の問い合わせ）	横浜真砂町一丁目十五番地 カネメ井上竹次郎方 橋本金太郎→東京日本橋区通り二丁目 蓬萊館ニテ 笹野栄吉	明治 4月5日	状	1	287
0457	書翰（書類送付の件）	田中正右衛門→笹野栄吉	明治 4月8日	状	1	192
0458	書翰（産後見舞）	福山泊川町 内山家内より→函館ハタコ町四十番地 笹野栄吉	明治 4月9日	状	1	108
0459	書翰（会計主任拝命の通知）	出口栄蔵→組合商店内 函館相生町八十四番地 西村利光方 笹野富吉	明治 4月16日	状	1	58
0460	覚（諸事控え）	笹野栄吉→笹野富吉	明治 5月2日	状	1	164
0461	書翰（手形催促の報告）	村山紋太郎→笹野栄吉	明治 5月5日	状	1	57
0462	書翰（金子持参の連絡）	村山紋太郎→笹野	明治 5月9日	状	1	68
0463	書翰（借用金返済の件）	村山紋太郎→笹野	明治 5月11日	状	1	69
0464	書翰（鱒の売買について）	岩代 福島町通り六丁目 高岡内青嶋国造→北海道函館港旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治 5月11日	状	1	127
0465	書翰（写真送付の件）	東京市麹町区中六番町十三番地 鈴木乗政→北海道函館旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治 5月12日	状	1	216
0466	書翰（祝宴案内）	函館汽船会社→笹野栄吉	明治 5月13日	状	1	59
0467	書翰（残高請求延引の件）	函館汽船会社 山本正徳→左々野栄吉	明治 5月15日	状	1	60
0468	書翰（金員受領通知）	松前郡福山寅向町 木田三右衛門→函館区旅籠町 サジルシ	明治 5月19日	状	1	91
0469	書翰（漁具の修理と塩蔵建設について）	三浦三次郎→笹野富吉	明治 5月23日	状	1	160
0470	書翰（函館魚菜会社取締役人撰挙状）	笹野栄吉→魚菜会社	明治 5月31日	状	1	225
0471	書翰（引継帳簿の引渡報告）	哥港組合商店内 原田定吉→ワーレ漁場にて 笹野富吉	明治 6月2日	状	1	191
0472	書翰（新商売の勧誘について）	長谷川→笹野	明治 6月2日	状	1	180
0473	ハガキ（肥料等値段表）	兵庫川崎町 藤井半七支店 藤井定介→函館旅籠町 笹野栄吉	明治 6月4日	状	1	
0474	書翰（加州鉄株に関して）	寿都郡大磯町 川村方 船津藤八→函館 笹野栄吉	明治 6月20日	状	1	236
0475	書翰（新聞広告について）	鈴木陽之介→函館 サジルシ 笹野支店	明治 6月28日	状	1	228
0476	書翰（千吉丸積荷塩売却値伺い）	坂本宅二郎→笹野御主人	明治 7月3日	状	1	93
0477	書翰（金比羅尊天大祭の案内）	高龍寺→笹野栄吉	明治 7月19日	状	1	252

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書 下
0478	書翰（参加の懇願）	輪島港ニテ 脇坂平吉→旅籠町商 船学校表之上 笹野栄吉	明治 7月24日	状	1	260
0479	ハガキ（商業挨拶）	区本材木町壹区丁目 □治右衛門 商店→□□港旅籠町 笹野栄吉	明治 8月4日	状	1	207
0480	書翰（荷捌一任の依頼）	山本→笹野御主人	明治 8月8日	状	1	124
0481	書翰（借入金依頼）	仲浜町 マルホシ山崎長次郎→笹 野御主人	明治 8月20日	状	1	273
0482	書翰（宴会案内）	渡辺商店 渡辺勝三郎・同支配人 池田庄吉→笹野栄吉	明治 8月22日	状	1	181
0483	書翰（①諸事報告 ②土地 売買の件）	哥港 鈴木陽之助→函館旅籠町 笹野栄吉	明治 8月26日	状	2	329
0484	書翰（唐津鉄道延長の件）	哥港 鈴木陽之助→函館旅籠町40 番地 笹野栄吉	明治 8月28日	状	2	330
0485	書翰（火事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風戸 端谷 雲吉→北海道函館区旅籠町四十番 地 笹野栄吉様御支店 笹野栄吉	明治 8月28日	状	1	53
0486	書翰（送金受取のお礼と火 事見舞）	石川県羽咋郡西海村字風無 堀本 典吉→北海道函館旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治 8月28日	状	1	198
0487	書翰（火事見舞）	厚岸郡浜中村二番地 矢幅三次郎 →函館旅籠町 笹野栄吉	明治 8月30日	状	1	43
0488	書翰（杉浦商店借金利子引 下取極通知）	函館港場町二十一番地 函館汽船 株式会社→笹野取締役	明治 8月31日	状	1	234
0489	書翰（依頼商品と発送方法 の件）	玉本末吉→笹野御主人	明治 9月1日	状	1	325
0490	書翰（借入金返金の連絡）	玉本末吉→笹野御主人	明治 9月3日	状	1	313
0491	書翰（火事見舞）	出口右衛門→笹野栄吉	明治 9月4日	状	1	241
0492	書翰（着港通知）	北見国利尻郡鴛泊港 千徳国丸 與三兵衛→函館区旅籠町四十番地 笹野支店	明治 9月4日	状	1	231
0493	書翰（①会合出席依頼 ② 会合出席再依頼）	田中正右衛門→笹野	明治 9月6日	状	2	54
0494	書翰（借入金返済猶予願）	仲浜町 マルホシ山崎長次郎→笹 野御主人	明治 9月7日	状	1	349
0495	書翰（災害報告等）	函館 笹野栄吉→根室港本町一丁 目 坂本藤吉様方 木下弥三右エ 門	明治 9月12日	状	1	20
0496	ハガキ（返信催促）	同区東川町二百四十番地 堀尾多 七→函館旅籠町 サジルシ御帳場	明治 9月13日	状	1	323
0497	書翰（近況報告）	陽之助→栄吉	明治 9月15日	状	1	111
0498	書翰（岩糸注文願）	日本橋区葦屋町三番地 小竹市兵 衛→函館旅籠町 笹野栄吉	明治 9月20日	状	1	49
0499	書翰（笹野栄吉死去に伴う 悔状）	字茄子原 黒崎留吉→函館港ニテ 旅籠町四十番地 笹野栄吉	明治 9月20日	状	1	83
0500	書翰（病氣見舞への礼状）	内山元太郎→笹野栄吉	明治 9月23日	状	1	71
0501	書翰（近況報告）	不詳→不詳（笹野栄吉）	明治 9月26日	状	1	85
0502	書翰（鮭取り引きについ て）	青嶋権三郎→サジルシ笹野	明治 9月28日	状	1	245
0503	電報（ヨキマス脱トリ子五 七）	ナホエツ フルカワ チヨシロ→ ハタゴ丁四〇ハンチ ササノエイ キチ	明治 9月29日	状	1	
0504	書翰（病氣見舞）	さた→母・志か・志い	明治 10月2日	状	1	317
0505	書翰（借金の一部返済及び 残金返済の猶余について）	→笹野	明治 10月2日	状	1	89
0506	書翰（①利用依頼 ②相場 書上）	新潟港船場町 嶋浅太郎→笹野栄 吉	明治 10月3日	状	2	48
0507	書翰（米・海産物相場）	藤井半七	明治 10月27日	状	1	96
0508	書翰（火事見舞）	釧路真砂町九十九番地 菊地兵助 →函館旅籠町 笹野栄吉	明治 11月8日	状	1	104
0509	書翰（借入金返済延期依 頼）	擇捉留別村 貫傳三郎→函館港常 盤松藏便り 笹野栄吉	明治 11月9日	状	1	166

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形 態	数 量	書下
0510	書翰（①興栄丸へ昆布送付の件 ②塩切鮭送付の件）	真砂町 石倉彦平→函館区旅籠町 笹野文七・引換証人	明治 11月9日	状	2	235
0511	書翰（浦塩知事指令書翻訳送付の件）	鈴木於兎平→笹野栄吉	明治 11月13日	状	1	158
0512	書翰（漁場出張命令の件）	□□→函館区旅籠町四〇番地 笹 野栄吉 露領サハリン組合商店 笹野留吉	明治 11月25日	状	4	36
0513	書翰（定時出航の変更通知）	汐止町→笹野支店 上野新蔵	明治 11月28日	状	1	211
0514	書翰（出港通知）	上野新蔵→笹野支店	明治 11月29日	状	1	147
0515	書翰（詫状）	東京於飢寒屈 □真人→笹野先輩	明治 12月7日	状	1	82
0516	書翰（為替金の件）	合名会社三井銀行函館支店→笹野 栄吉	明治 12月8日	状	1	165
0517	書翰（酒谷小三郎手船北海道丸抵当の件）	田中→笹野	明治 12月17日	状	1	84
0518	ハガキ（親父様快方のお知らせ）	東京本郷元町貳丁目四十七番地 渡辺清次郎→北海道函館区旅籠町 四十番地 笹野支店	明治 12月18日	状	1	
0519	書翰（開店案内状）	勝見家→サジルシ笹野	明治 12月26日	状	1	157
0520	書翰（典拠祝宴案内）	広谷源治→笹野栄吉	明治 12月26日	状	1	195
0521	書翰（約束手形用立の件）	杉浦→脇坂	明治 12月27日	状	1	311
0522	書翰（積荷揚場所間違い等の件）	村山紋太郎→笹野栄吉	明治 12月31日	状	1	348
0523	書翰（面会に関する通知）	山本正徳→日本橋通り二丁目 蓬 萊屋方 笹野栄吉	明治 19日	状	1	262
0524	ハガキ（金子受取通知）	西津軽郡深浦 成田石□→函館旅 籠町 笹野栄吉方 □□	明治 24日	状	1	351
0525	書翰（拝借金送金の件等）	田中→笹野	明治 29日	状	1	347
0526	ハガキ（訪問通知）		明治	状	1	291
0527	欠番					
0528	樺太共同漁業株式会社定款 （第1章～第6章）		明治	冊	2	
0529	キ（鯨・鰯・鰈石高）		明治	状	1	224
0530	欠番		明治			
0531	書翰（魚類相場等について）	小樽色内町 マルト小島商店 小 島幸吉→函館区旅籠町 内山御令 室	明治	状	1	336
0532	書翰（届書への捺印依頼）	→笹野	明治	状	1	248
0533	封筒（封筒表に金拾五円廿 八銭□及計算書在中とあり）	→笹野	明治		1	
0534	封筒	→笹野栄吉	明治		1	
0535	書翰（周航通知）	笹野→笹野	明治	状	1	326
0536	封筒	田中正右衛門→笹野栄吉	明治		1	
0537	封筒	函館船渠株式会社創立事務所→北 海道函館区旅籠町四十番地 笹野 栄吉	明治		1	
0538	封筒	北海道函館区末広町二番地 株式 会社 函館銀行→笹野栄吉	明治		1	
0539	書翰（在宅伺い）	函館西浜町三十四番地 福田太治 郎→笹野	明治	状	1	215
0540	封筒（封筒表に電信入とあり）	大阪南堀井一番町 藤本太四郎方 忠谷久蔵→若村様 山本	明治		1	
0541	封筒（封筒表に貸金証書通 とあり取消線がひかれている）	五百→	明治		1	
0542	封筒		明治		1	
0543	封筒		明治		1	
0544	帯	越後直江津町 古川長四郎→函館 旅籠町 笹野栄吉	明治		1	

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形態	数量	書下
0545	函館海獣捕獲統制組合同規約 （第1章～第10章及び函館 海獣捕獲統制組合同顧問名 簿）		昭和17年7月1日	冊	1	
0546	第五期営業報告書（昭和20 年11月1日から昭和21年8 月10日迄における営業内容 及び株主名簿）	東京都日本橋区室町壹丁目貳番地 日本海獣株式会社	昭和21年8月10日	冊	1	
0547	欠番					
0548	欠番					
0549	書翰（①直段及商況につい て ②受領書）	東京日本橋元四日市町八番地 北 海道商会→函館旅籠町四十番地 笹野栄吉	1月17日	状	2	121
0550	書翰（鱈の値段の誤りと値 段の変更について）	東京日本橋元四日市町八番地 北 海道商会→蓬萊家御宿 笹野	2月6日	状	1	322
0551	書翰（お詫びと商況報告）	石川県能登国羽咋郡西海村字風無 笹野本店ニテ 木下弥三吉→東京 日本橋区平松町七番地 森己之助 様方 笹野栄吉	2月21日	状	1	32
0552	書翰（近況報告）	岩村吉太郎→笹野栄吉	3月15日	状	1	242
0553	書翰（近況報告）	石川県能登郡西海村字風なし 小樺 六三郎→北海道函館旅籠町四十番 地 笹野支店栄吉	3月27日	状	1	222
0554	封筒（封筒表に土人クトケ リニ托スとあり）	東海岸最入泊 サジルシ笹野漁場 山田隆三→□爾薩克港 □合商店 内 笹野富吉	3月27日		1	
0555	書翰（不明手紙の件）	定塚三右衛門→北海道函館港旅籠 町四十番地 サジルシ笹野支店	3月31日	状	1	37
0556	書翰（塩買入について）	備前国日比港 森本友太郎方ニ 千吉丸 平野重助→函館区旅籠町 40番地 笹野支店	3月31日	状	1	223
0557	封筒	函館区旅籠町 笹野栄吉→コルサ コフ組合商店ニテ 笹野留吉	4月16日		1	
0558	書翰（病気見舞）	石川県羽咋郡西海村 笹野留守店 小堀老母→北海道箱館旅籠町四十 番地 笹野栄吉	4月25日	状	1	227
0559	ハガキ（報酬金受領の件）	栄松→函館港旅籠町 笹野栄吉	8月7日		1	206
0560	書翰（①コルサコフ商況報 告 ②ルーブル、税金の 件）	在哥爾薩港（哥爾薩甲、コルサコ フ） 笹野留吉→日本帝国北海道 箱館区旅籠町四十番地 笹野栄吉	8月24日	状	2	63
0561	書翰（海産物相場の件）	東京日本橋区青物町十六番地 渡 辺大次郎→函館旅籠町 笹野支店	8月30日	状	2	321
0565	書翰（法事の案内）	元町 チガイヤマオウ池田富治	10月	状	1	221
0562	書翰（金毘羅尊天秋祭祈禱 会執行案内）	高龍寺執事→笹野栄吉	11月13日	状	1	218
0563	書翰（近況報告）	小島徳松→笹野文七	12月3日	状	1	70
0564	書翰（金子借用依頼）	仲浜町 マルホシ山崎長次郎→笹 野御主人	12月29日	状	1	337
0566	書翰（辞職の件）	会社ニテ 田中→広谷	24日	状	1	220
0567	漁師必携 漁網集覧（編著 者、伊吹群作・小池源司 笹野支店備付品）	伊吹群作	大正7年10月10日	刊 本	1	
0568	欠番					
0569	書翰	東京本材木町1丁目7番地 渡 辺治右衛門商店→函館区旅籠町 笹 野栄吉	明治26年9月21日	状	1	
0570	封筒（封筒表に田中正右衛 門とあり。裏に廿六日とあ る）	→笹野栄吉			1	
0571	書翰（水産談話会案内）	函館漁業会社事務所→笹野栄吉		状	1	
0572	電文下書			状	1	72
0573	書翰（岩糸の注文の件）	小竹市兵衛→笹野栄吉御店		状	1	163

収納 番号	資料名（内容）	作成者→受取人	作成年代	形態	数量	書下
0574	樺太共同漁業株式會社定款 （変更案）（第 1 章総則～ 第 6 章附則）			冊	1	
0575	書翰（貸金申出の件）			状	1	175

市立函館博物館 研究紀要 第31号

編集・発行 市立函館博物館

040-0044 函館市青柳町17-1

Tel 0138-23-5480 FAX 0138-23-0831

HP <http://hakohaku.com>

E-mail hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

発行日 令和3(2021)年3月31日